

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科特進コース シラバス

教科	理科	科目	理科基礎演習	単位数	4	選択等	文系必修
教科書	改訂 高等学校 化学基礎（第一学習社） 改訂版 生物基礎（数研出版）						
副教材等	チェック&演習 化学基礎(数研出版) チェック&演習 生物基礎(数研出版)						

1 学習の到達目標

2 年次までに学習した生物基礎、化学基礎の内容について、大学受験を念頭に問題演習を行い、様々な受験問題の傾向に慣れるとともに、模試や大学入試共通テストで得点できるよう科学的な知識と思考力、表現力を身に付ける。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

徹底した問題演習で、大学受験を突破する力を身に付けましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

※進路希望状況に応じて、学習内容を大幅に変更することがある。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	化学分野	化学基礎の復習 及び問題演習 ＊物質の成分と構成元素 ＊原子の構造 ＊化学結合 ＊物質と化学反応式	○	○	○	I：化学基礎の基礎的な問題や知識の問題を解くことができる。 II：応用問題や論述問題を解くことができる。また、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
1 学期 期末	生物分野	生物基礎の復習 及び問題演習 ＊生物の多様性 ＊エネルギーと代謝 ＊呼吸と光合成 ＊遺伝情報の複製と分配、発現 ＊体内環境	○	○	○	I：生物基礎の基礎的な問題や知識の問題を解くことができる。 II：応用問題や論述問題を解くことができる。また、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
2 学期 中間	総合分野	化学基礎の復習 及び問題演習 ＊酸と塩基 ＊酸化還元反応 生物基礎の復習 及び問題演習 ＊免疫 ＊生態系	○	○	○	I：化学基礎の基礎的な問題や知識の問題を解くことができる。 II：応用問題や論述問題を解くことができる。また、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
2 学期 期末	総合分野	共通テスト対策問題演習	○	○	○	I：生物基礎の基礎的な問題や知識の問題を解くことができる。 II：応用問題や論述問題を解くことができる。また、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

3 学 期	総 合 分 野	入試対策問題演習	○	○	○	<p>I：生物基礎の基礎的な問題や知識の問題を解くことができる。</p> <p>II：応用問題や論述問題を解くことができる。また、説明することができる。</p> <p>III：授業中の態度、提出物</p>	<p>定期考査</p> <p>小テスト</p> <p>課題</p> <p>実験活動</p> <p>授業態度</p>
-------------	------------------	----------	---	---	---	--	---

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科特進コース シラバス

教科	数学	科目	数学演習	単位数	6	選択等	文系必修
教科書	高等学校 数学 C (数研出版)						
副教材等	4 プロセス 数学 C (数研出版) チャート式 解法と演習 数学 C (数研出版) スタディサプリ 大学入学共通テスト対策問題集						

1 学習の到達目標

ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

本年度より数学 C が追加された新課程での大学入試が始まり、数学 C ではベクトル、大学入学共通テストの範囲として指定されており、まずはその分野を終わらせることが重要です。また、近年の大学入学共通テストの問題は、知識だけを問う問題は減り、読解力・思考力等様々な能力が求められます。それら一つ一つ身に付ける意欲をもって臨んでほしい。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評 価 方 法	朝テスト 授業中の小テスト 定期考査	授業中の小テスト 定期考査 レポート課題	提出物 レポート課題

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	平面上のベクトル	第2節 ベクトルと平面図形	○	○	○	位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できる。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
1 学期 期末	空間のベクトル	空間の点 空間のベクトルの性質 ベクトルの内積 ベクトルの図形の応用 座標空間における図形	○	○	○	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できる。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2 学期 中間		大学入学共通テスト対策	○	○	○		小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2 学期 期末		大学入学共通テスト対策	○	○	○		小テスト 定期考査 提出物 レポート課題

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 特進コース シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3	選択等	文系選択
教科書	詳説日本史（山川出版社）						
副教材等	史料による日本史（山川出版社） 新詳日本史（浜島書店）						

1 学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる人としての自覚と資質を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史は暗記科目ではありません。理解しようという姿勢で授業にのぞめば、日本史がどんどん好きになって自然に知識は定着します。毎週一回の復習テストに合格することで全国模試の成績も上がり、難関大学に挑戦できるようになります。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評 価 方 法	定期考査 宿題テスト・小テスト 提出物 授業態度	定期考査 授業中の発問に対する回答 授業態度 提出物	定期考査 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	近世	近世の幕開け 幕藩体制の成立と展開 幕藩体制の動揺	○	○	○	織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕政の安定 経済の発展 元禄文化 寛政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
1 学期 期末	近代・現代	近世から近代へ 近代国家の成立 近代国家の展開	○	○	○	開国と幕末の動乱 幕府の滅亡と新政府の発足 明治維新と富国強兵 立憲国家の成立 日清・日露戦争と国際関係 第一次世界大戦と日本 ワシントン体制	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
2 学期 中間	近代・現代	近代の産業と生活 恐慌と第二次世界大戦	○	○	○	近代産業の発展 近代文化の発達 市民生活の変容と大衆文化 恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
2 学期 期末	近代・現代	占領下の日本 高度成長の時代	○	○	○	占領と改革 冷戦の開始と講和 55 年体制 経済復興から高度経済成長へ	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する

							姿勢 授業態度 提出物
3 学 期	近 代 ・ 現 代	激動する世界と日本	○	○	○	経済大国への道 冷戦終結と日本社会の変容	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発 問に対する 姿勢 授業態度 提出物

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 特進コース シラバス

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	3	選択等	選択
教科書	詳説世界史探究 山川出版社						
副教材等	詳説世界史探究整理ノート 山川出版社						

1 学習の到達目標

国際社会の諸課題に興味をもち、それに主体的に関わり解決していく能力を身につけること。また世界史における様々な事象を知り、それを踏まえて自ら探求・調査してそれを深め、より深い知識や総合力を身につけることを目指します。また討論や共同作業を通じて、ともに学習能力を高め合い、他者の意見をも取り入れる柔軟な思考力を養成することを目指します。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史学習を通して異文化を知り、他者を尊重する態度を身につけよう。
世界の様々な地域の歴史を相互に比較しながら、人間の営みについて理解を深めよう。
現代の諸問題の背景を歴史的観点から眺める視点を養おう

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	世界史事象に関する基本事項を地理的条件や日本の歴史と関連づけ身につける。 歴史的資料を収集し有用な情報を読み取る力を身につける。	現代の諸問題を歴史的観点から考察し、国際社会の状況をふまえながら公正に判断して、その過程や結果を文章にまとめるなどして、適切に表現できている。	世界諸地域の形成過程について、現代との関わりに留意しながら課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる態度を形成する。
評 価 方 法	定期考査や確認テストなど	定期考査、レポート、プレゼン 課題への取り組み ノート内の思考・判断・表現	発問への反応・発言 課題への取り組み・内容 定期考査による主体性の深まりの確認

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	○	○	○	産業革命と環大西洋革命以後、欧米諸国は近代工業と国民主権をめざす政治改革によって国民国家を形成したことを把握する。資料や絵画を通して時代の理解を深める。	定期テスト、 確認テスト
1 学期 期末		第14章 アジア諸地域の動揺	○	○	○	ヨーロッパ諸国のアジアへの軍事・経済的な進出が強まり、アジア諸地域では従属化と植民地化が進む一方、改革の動きも生まれた。経済指標や歴史資料などにもとづき考察を進める。	定期テスト 確認テスト ノート提出
2 学期 中間		第15章 帝国主義とアジアの民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容	○	○	○	世界分割の進展によって列強体制は二分化し、帝国主義に圧迫されたアジア・アフリカ諸国では広範なナショナリズム運動が台頭した。帝国主義の進展を資料や地図によって確かめ、民族運動の様子を資料や動画などで理解する。	定期テスト レポート 確認テスト
2 学期 期末		第17章 第二次世界大戦と新しい国際隆盛の形成 第18章 冷戦と第三世界の台頭	○	○	○	国際関係の緊張から第一次・第二次世界大戦が勃発した。戦後には国際連盟や国際連合などが設立された一方で、米ソを中心とする東西陣営の対立が始まった。戦争の動画などを中心に追体験をする。	定期テスト 確認テスト ノート提出
3 学期		第19章 冷戦の終結と今日の世界 入試問題への対応	○			90年代の初めまでに冷戦は終結した。今日の世界は多極化する一方環境問題など国際的な協力を模索している。主体的な態度で現代の課題に対応する姿勢が求められている。	討論 動画視聴 入試問題の 演習

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 特進コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	論理・表現Ⅲ	単位数	4	選択等	必修
教科書	EARTHRISE English Logic and Expression III Standard（数研出版）						
副教材等	CLOVER 英文法・語法ランダム演習（数研出版） Listening Laboratory Basic Advanced（数研出版） 共通テスト 10 分リスニングプレノート（数研出版） 頻出英語整序問題 850（桐原書店）						

1 学習の到達目標

（1）話すこと〔やり取り〕

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。

（2）話すこと〔発表〕

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。

（3）書くこと

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

（4）聞くこと

毎時間にリスニング用副教材を用いて、基礎的なリスニング力を修得する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

積極的にスピーチ、プレゼンテーションディベート、ディスカッションを英語でするためには、まずは文法力や語彙力の修得により、正しい英文を発信できるかが大切です。文法事項や語彙を確認しながら、教科書を勉強していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既 有の知識及び技能と関連付け たり活用したりする中で、概念 等として理解したり、技能を習 得したりしている。	知識及び技能を活用して課題 を解決する等のために必要な 思考力、判断力、表現力等を身 に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思 考力、判断力、表現力等を身に 付けたりすることに向けた粘 り強い取組の中で、自らの学習 を調整しようとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出課題 ・学習状況 ・確認テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション、発表 ・提出課題 ・確認テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション、発表 ・発問への対応 ・課題への取り組み、積極性
上記に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の 評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において
特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間		Part 1: Functional Expressions Lesson 1 New Year's celebration Lesson 2 Working and studying online	 ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	[題材・内容] ・意見、希望、要求を述べる ・賛成、反対を述べる ・勧誘する、招待する、期待する [文型・文法事項] ・In my opinion~ ・wish for~ ・I hope I'll be able to~ ・I agree with~ ・It's true that~ ・Would you like to~? ・I'd be glad if you could~	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査

		Lesson 3 Recreation	○	○	○	・ I'm looking forward to~	
1 学 期 期 末		Lesson 4 Open campus	○	○	○	[題材・内容] ・ 計画、意図を述べる ・ 提案、助言を行う ・ 手戸、譲歩を述べる	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査
		Lesson 5 Please to buy lunch	○	○	○	[文型・文法事項] ・ Are you thinking of~? ・ I've decided to~	
		Lesson 6 A helping hand	○	○	○	・ I'm intending to~ ・ Why don't we~? ・ I don't think you should~ ・ It would be a good idea to~ ・ so~that... ・ Although~ ・ No matter what~	
2 学 期 中 間		Lesson 7 Online shopping	○	○	○	[題材・内容] ・ 依頼、要請を行う ・ 許可する ・ 謝罪する、謝罪に応じる ・ 感謝、喜びを述べる	
		Lesson 8 Sharing information	○	○	○	[文型・文法事項] ・ Could you~?	
		Lesson 9 Fixing dates	○	○	○	・ May I have~? ・ Would it be possible to~?	
		Lesson 10 Work experience programs	○	○	○	・ May I~? ・ Would it be all right to~? ・ Do you mind if~? ・ I have to apologize for~ ・ I'm sorry~ ・ I would like to thank you for~ ・ Thanks to~	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査

						・ I truly appreciate~	
2 学 期 期 末		Part2: Paragraph Structure Lesson 1 Electronic advices Lesson 2 Travel advertisement Lesson 3 Animal features Lesson 4 Environmental issues	○	○	○	[題材・内容] ・ パラグラフの基礎 ・ 例示、列挙 ・ 比較、対照 ・ 原因、結果 [文型・文法事項] ・ Introductory sentence/ Topic sentence/Concluding sentence ・ Illustration / Listing ・ Comparison / Contrast ・ Cause / Effect	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査
3 学 期		Lesson 5 History of Japanese emigration to Brazil	○	○	○	[題材・内容] ・ 時間的順序 [文型・文法事項] ・ Time order	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト

※上記以外にも副教材としてのリスニング演習と、特進コースとして大学入試に対応するための演習を補充教材を用いて行う。

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 特進コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	5	選択等	必修
教科書	New Edition Grove English CommunicationⅢ（文英堂）						
副教材等	英単語ターゲット 1900（旺文社）						
	Next Stage 英文法・語法問題 4th edition（桐原書店） 入試長文読解シリーズ④ Make Your Ascent to Better English Reading（数研出版）						

1 学習の到達目標

継続的に小テストを実施することにより短期的な目標をもち、それを積み重ねていくことで英語学習をさらに習慣化していきます。また、既習事項を確認しながら基本事項をしっかりとおさえ、長文読解・英文法などを総合的に学習します。大学入試にむけて演習を増やし、様々なジャンルの英文になれるようにします。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

受験合格の近道は、コツコツと基礎を固めることです。すぐに結果が出なくても、やり続けることで努力は開花します。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の4技能（話す、書く、聞く、読む）を実践すべく、その土台となる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出課題 ・学習状況 ・確認テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン、発表 ・提出課題 ・確認テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン、発表 ・オンライン英会話 ・発問への対応 ・課題への取り組み、積極性

上記に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		1)Fashion Revolution: Who Made Your Clothes? 2)The Custom of Food Samples 3)A Boy Who Inspired the World 4)Socotra: A Unique Island オンライン英会話 模試対策 英語検定対策	○	○	○	[題材・内容] 「Fashion Revolution 活動」 「食品サンプル」 「フィリピンの少年」 「世界遺産ソコトラ島」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] ・SVO（疑問詞節） ・SVOO/SVOC ・分詞構文 ・仮定法を含む表現 ・受け身	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査
1 学期 期末		5)No Meat on Monday 6)Bamboo Trains 7)Holiday Weight Gain 8)A Feathery Find in Amber 9)Bed Nets for African Children オンライン英会話 模試対策	○	○	○	[題材・内容] 「Meat Free Monday」 「カンボジアの竹列車」 「祝祭日の体重増加」 「琥珀の恐竜の羽毛」 「マラリア対策」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査 オンライン英会話

						<p>[文型・文法事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SVO+不定詞 ・ 助動詞 ・ 比較 ・ 助動詞+完了形 ・ 分詞の形容詞的用法 	
2 学 期 中 間		<p>10)The Way You Look at a Problem</p> <p>11)A Song for the Queen</p> <p>12)Olympic Sports Come and Go</p> <p>13)Audrey Tang: Not Just an IT Expert</p> <p>14)Earth Hour 模試対策 受験対策</p>	○	○	○	<p>[題材・内容]</p> <p>「確証バイアス」</p> <p>「シルビア王妃と ABBA」</p> <p>「オリンピック競技」</p> <p>「オードリー・タン」</p> <p>「Earth Hour 活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の大意を理解し設問に答える。 ・ 与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・ 文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・ 相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 <p>[文型・文法事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SVOO の受け身 ・ 関係副詞 ・ 前置詞+関係代名詞 ・ 倒置 	<p>学習態度</p> <p>MetaMoji 学習</p> <p>単語テスト</p> <p>単元テスト</p> <p>中間考査</p>
2 学 期 期 末		<p>15)Creating a Bright Future Through Chocolate</p> <p>16)Spot Fake News</p> <p>17)The Sagrada Familia: A Spiritual Wonder</p> <p>18)NASA's Hidden Treasures: Human Computers</p> <p>模試対策 受験対策</p>	○	○	○	<p>[題材・内容]</p> <p>「児童労働」</p> <p>「メディアリテラシー」</p> <p>「サグラダ・ファミリア」</p> <p>「NASA で働く 3 人の女性の職務」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の大意を理解し設問に答える。 ・ 与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・ 文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・ 相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 	<p>学習態度</p> <p>MetaMoji 学習</p> <p>単語テスト</p> <p>単元テスト</p> <p>期末考査</p>

					[文型・文法事項] <ul style="list-style-type: none"> ・完了進行形 ・完了形 ・付帯状況の with ・It is ～to 不定詞 	
3 学 期		19)Why Can't You See It? 20)The Svalbard Global Seed Vault	○	○	○ [題材・内容] 「注意の錯覚」 「スバルバル諸島の種子貯蔵庫」 <ul style="list-style-type: none"> ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞の非制限用法 ・関係副詞の非制限用法 	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 特進コース シラバス

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3	選択等	必修
教科書	アクティブスポーツ（大修館）						
副教材等	なし						

1 学習の到達目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

生涯の中で健康寿命を延ばす為には適度な運動が必要です。運動をすると、さわやかな気分になったり心地よさを味わったりすることができます。また、体力の向上にもつながります。日常の生活の中に運動を取り入れたり、生涯にわたって運動に親しむことができるように、運動の仕方を身に付けながら運動のもつ楽しさを感じられるような授業を行います。

苦手なこともあるかとは思いますが、そのままにせず、出来ることを少しずつ増やしていく努力をしましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 また、個人及び社会生活にお	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。 また、個人及び社会生活における健康課題を発見し、その解決を目指して、総合的に考え、判	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 また、健康を優先し、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに関する学習活動に主体的に取り組もうとし

	ける健康・安全について、課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。	断し、それらを表現している。	ている
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期		集団行動 ラジオ体操 筋力トレーニング 陸上競技 ダンス	○	○	○	「知識・技能」 ・現代的なリズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることができる 「思考・判断」 ・ダンスの名称や用語，文化的背景と表現の仕方，体力の高め方，課題解決の方法，交流や発表の仕方などを理解し，グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる 「主体的」 ・ダンスに主体的に取り組むとともに，互いに共感し高め合おうとすること，役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること，合意形成に貢献しようとするなどや，健康・安全を確保することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応

2 学 期		<p>集団行動 ラジオ体操 筋力トレーニング 陸上競技</p>	○	○	○	<p>「知識・技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> 短距離走・リレーでは、中間走の高いスピードを維持して速く走ること、長距離走では、ペースの変化に対応するなどして走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができる <p>「思考・判断」</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方が工夫できる <p>「主体的」</p> <ul style="list-style-type: none"> 陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 確認テスト レポート 発問への対応
3 学 期		<p>集団行動 ラジオ体操 筋力トレーニング 球技</p> <ul style="list-style-type: none"> サッカー 野球 バスケットボール 	○	○	○	<p>「知識・技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開することができる ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開することができる <p>「思考・判断」</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる <p>「主体的」</p> <ul style="list-style-type: none"> 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 確認テスト レポート 発問への対応

					を果たそうとすること，合意形成に貢献 しようとする事などや， 健康・安全を 確保することができる	
--	--	--	--	--	--	--

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 特進コース シラバス

教科	国語	科目	国語演習	単位数	2	選択等	特進
教科書	指定なし						
副教材等	現代文問題 古典問題						

1 学習の到達目標

さまざまな文章・資料に触れながら、各文章・資料の書き手の意図を正確に理解する。また自身の意図を他者に正確に伝達できるようになる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

それぞれの文章の特徴をつかみ、読み解いていくため自発的に学ぶ姿勢を身につけよう。読み解いたものを、他者に分かりやすく伝えるため、語彙力や基礎知識を増やし、表現技法を学び活用していこう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
		I	II	III		

1 学 期 中 間		<p>古典文法</p> <p>現代文基礎演習</p> <p>小論文演習</p>	○	○	○	<p>I 漢字や単語の知識を吸収しようとする。</p> <p>II 文章を的確に読もうとする。 キーワードやキーセンテンスを見つけ出すことができる。</p> <p>III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。 疑問の所在を明らかにし、解決しようすることができる。</p> <p>II 注と関連させて本文を読むことができる。</p> <p>III 分からない言葉や習慣について調べることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答
1 学 期 期 末		ベネッセ大学入試共通テスト模試過去問解説	○	○	○	<p>I 漢字や単語の知識を吸収しようとする。</p> <p>II 文章を的確に読もうとする。 各種文章の特性を知り、客観的に分析して読むことができる。</p> <p>III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。</p> <p>I 文語文法、古典常識を活用して読もうとする。</p> <p>II 注と関連させて本文を読むことができる。</p> <p>III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・定期考査
夏 休 み ～ 2 学 期 中 間		<p>ベネッセ駿台共通テスト模試過去問解説</p> <p>大学入試過去問演習 (現・古・漢)</p>	○	○	○	<p>I 既知の事実と新たな知識を連動して考えることができる。</p> <p>II 各文章・資料の特性を知り、読み比べができる。</p> <p>III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。</p> <p>I 文語文法、古典常識を活用して読みを深められる。</p> <p>II 伝統的な文化・習慣と現代の文化・習慣との相違点と相似点を見つけることができる。</p> <p>III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答

2 学 期 末		大学入試過去問演習	○	○	○	<p>I 漢字や単語の知識を学び、運用しようとする。</p> <p>II 文章を的確に読もうとする。 文章全体構成を意識して読むことができる。</p> <p>III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。</p> <p>I 文語文法、古典常識の知識を活用して、文章を読み解こうとする。</p> <p>II 伝統的な文化・習慣と現代の文化・習慣の相違点と相似点を、他者と共有することができる。</p> <p>III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 定期考査
3 学 期		入試過去問演習				<p>I 文章を的確に読もうとする。 各文章について客観的に分析し、他者と共有することができる。</p> <p>II 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。</p>	

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 特進コース シラバス

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3	選択等	必修
教科書	『古典探究』（大修館書店）						
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』（啓隆社）、『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店） 『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社）、『古文単語 300』（旺文社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房） 〈以上高校 1 年より継続して利用〉						

1 学習の到達目標

古文や漢文を主体的に読み深めることを通して、日本の伝統的な言語文化への理解や関心を深めることを目的とする。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

古典を「読むこと」を軸に、単に現代語訳に改めることをゴールにするのではなく、古典の解釈をするために積極的に文化理解を深め、時にクリティカルな読みを含め、積極的な学習態度を涵養したい。話の構成や展開に工夫があることに気づき、自らの言語活動の質をも向上させてほしいと思っています。
--

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しみ、言語の特徴や決まりなどについて理解する。本文の目的や場面、意図に応じ、論理の展開に目を見張り、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ、相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、文化などについて自分の考えを持っている。	国語で理解する能力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	説話・物語	『大和物語』 「をばすて」 『大鏡』「三船の才」 「競べ弓」 『古今著聞集』 「源義家、衣川にて安部貞任と連歌のこと」	◎	○	○	古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 作品の成立時代や背景を理解し、文章に描れている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。 連歌についての理解を求める。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
1 学期 期末	俳論・日記	『去来抄』 「行く春を」 『蜻蛉日記』 「町の小路の女」	○	◎	○	物事の様子や場面などを、読み手が言葉をしてありありと想像できるよう描いている。 書くことに必要な、文の組み立てについて理解している。 贈答歌についての理解を求める。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 中間	漢文・随筆	『史記』 「荊軻」 『枕草子』 「二月つごもりごろに」 「梨花一枝」	○	◎	○	文章に描かれている情景を、文や文章、語などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 期末	日記 文学・物語	『和泉式部日記』 「薫る香に」 『源氏物語』 「御法」	◎	○	○	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築かれてきたに気付いている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などが果たしている効果に気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

3 学 期	演 習	物語・随筆・歌論・俳 論に至るまで受験問題 を演習としておこなう	○	◎	○	<p>現代文分野に近づいた理解をする必要もあり、歌論・俳論ではイイタイコトをつかみ、物語、随想では作中人物の心情などを理解する。和歌が含まれた文においては、文脈と和歌の関係をつかむ。</p> <p>和文脈と漢籍がつながるような作品においては、深い理解を求め、文章の形態や文体の違いによる特色について、理解する。</p> <p>古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
-------------	--------	--	---	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 特進コース シラバス

教科	国語	科目	論理国語	単位数	3	選択等	必須
教科書	「論理国語」 (大修館書店)						
副教材等	共通テスト対策問題集国語 現代文(川合出版) 現代文キーワード読解 (Z会) ジャンプアップ 高校漢字問題集[改訂版] (東京書籍)						

1 学習の到達目標

様々なテーマの評論文、随筆を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

また、国語を適切に表現でき、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばしていく。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

様々なテーマの文章を通して、自らの物事に対する捉え方や考え方の幅を広げ、思考を深められるようにしましょう。また学習から得られた知識や知見を自身の読解力に活かすと同時に、コミュニケーション能力にも活かすことができるようにしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	論理の展開を工夫して説得力のある文章を書くことができ、言葉の決まりや適切な言葉遣い、漢字などについて理解し使ったりするとともに、現代思想に関心を持ち、効果的に自己の考えを表現する。	他者の考えや意見を傾聴し、目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。	国語で伝え表現する力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、他者の意見との差異を認め、言語活動を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、模試対策、共通テスト対策 ・「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ ・記号的メディアと物理的メディア 	○	○		<p>文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握している。</p> <p>目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
1 学期 期末		<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、模試対策、共通テスト対策 ・ポスト真実時代のジャーナリズムの役割 ・人を指す言葉——自称詞・対称詞・他称詞 	○	○		<p>論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 中間		<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、模試対策、共通テスト対策 ・政治を支える心構え ・「である」ことと「する」こと 	○	○		<p>言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。</p> <p>主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 期末		<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、模試対策、共通テスト対策 ・日常に走る亀裂 ・言語と他者 	○	○	○	<p>論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露

3 学 期		<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、模試対策、共通テスト対策 ・日本文化の三つの時間 	○ ○	○ ○	○	<p>文章の種類を踏まえて、内容や構成，論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。</p> <p>自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
-------------	--	---	------------	------------	---	---	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』（本願寺出版社）						
副教材等	『日々の糧』 『聖典聖歌』						

1 学習の到達目標

宗教に関して単に知識をつめこむのではなく、自ら学び、自ら考える力を育む。自分自身をしっかりと見つめ直し、より充実した生き方を追及できるように学習する。また、学校生活における生徒間のかかわりの中から、感謝の気持ちと、思いやりの心を身につけ、心豊かな宗教的情操を育むことを目標とする。

3 学年の宗教では、浄土真宗を開かれた宗祖親鸞聖人の生涯を学び、また念仏の教えを通じて、人生に対する考え方の中で「生きる意味とその方向性」を見つめ直す。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

お釈迦様も、親鸞聖人も生身でこの世を生きた人間である。人間の苦をどのように受け止められ、人の世を觀ておられたのか。生きる拠り所は何だったのか。その生涯を学びながら、私たちも、今一度自らと丁寧に向き合ってみよう。また、『日々の糧』からの気づき、「黙想」の習慣は、身口意を整える。習慣がその人を作る。しっかりと取り組んでいこう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	親鸞聖人の教えを正しく理解し、教えがどのように伝わっていくのか、その背景を正しく理解できているか。また、知識として理解を深めるだけでなく、理解を深めて人間性を養うことに繋がっているか。	親鸞聖人の生涯の学びにおいて、実社会や実生活と自己とのかかわりから、問を見出し、自分で課題をたてて情報を集め、整理、分析してまとめ、表現しているか。また、日々の糧を通じて自分の問題として受け止め、発信することができているか。	親鸞聖人の生涯を通じて自分自身の生き方と社会の在り方を考え直し、主体的に学ぶ姿勢がみられるか。
評 価 方 法	定期考査	パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 年間指導計画

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第一節 真実を求めています	オリエンテーション 第3節 仏教の日本伝来 3 平安時代の仏教 4 鎌倉時代の仏教 まとめ 中間考査 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○	I：平安時代・鎌倉時代における仏教の在り方を学び、その時代に起こった宗派についての知識を深めているか。 II：親鸞聖人に影響を与えた仏教の諸派についても学ぶ。また、日々の糧の内容について自分の問題としてとらえて表現できる。 III：仏教の祖師たちの教えを学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。	学期末に行う年4回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
1 学期 期末	第一節 真実を求めています	第4章 親鸞聖人の生涯（教えと人生） 1 誕生 2 親鸞聖人の出家 3 比叡山の修行 4 横川の不断念佛 まとめ 期末考査 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○	I：親鸞聖人がどのような経緯で出家に到ったのか、また、比叡山においてどのような生活を送っていたのかを理解している。 II：親鸞聖人が行った修行において、どのような気づきがあったのかを理解する。 III：親鸞聖人の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。	

2 学 期 中 間	第二節 念仏の道を歩む	5 六角堂の参籠	○	○		I：親鸞聖人が流罪となってどのような生活の中から自分自身見つめていったのか理解している。 II：親鸞聖人が関東に伝道するに至った経緯についてまとめ、があったのか理解している。 III：親鸞聖人の生き方について学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。
		6 吉水入室	○	○		
2 学 期 期 末	第二節 念仏の道を歩む	7 法然聖人の教え	○	○		
		第2節 法難と伝道				
		1 念仏弾圧	○	○		
		2 非僧非俗	○	○		
		3 愚禿の内省	○	○		
		4 結婚	○	○		
		5 関東への移住	○	○		
		6 生きた伝道	○	○		
		※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。		○		
3 学 期	第三節 真実の教え	第3節 帰洛と晩年	○	○		I：親鸞聖人の晩年の伝道生活にふれ、どのように念仏の教えがひろがったのかを理解する。また、念仏の教えを正しく理解している。 II：本願寺の発展について、資料をまとめ、発表する。 III：親鸞聖人の生涯、み教えから生き方について学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。
		1 親鸞聖人の帰洛	○	○		
		2 晩年の生活	○	○		
		3 親鸞聖人の往生	○	○		
		4 廟堂の建立	○	○		
		5 見真大師	○	○		
		6 報恩講	○	○		
		第5章 念仏の教え	○	○		
		第1節 阿弥陀仏の本願	○	○		
		第2節 他力回向	○	○		
3 学 期	第三節 真実の教え	第3節 信心と称名	○	○	○	I：親鸞聖人のみ教えから、浄土真宗の教えについて正しく理解している。 II：3年間を振り返って学んだこと、感じたことを振り返る。 III：親鸞聖人の念仏の教えが自分に向けられた願いと受け止め、積極的に取り組むことができる。
		まとめ				
3 学 期	第三節 真実の教え	まとめ	○	○	○	

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科専攻選択コース シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	ブラッシュアップ English	単位数	2	選択等	必修
教科書	DUAL SCOPE English Grammar in 22 Stages 新訂版 (数研出版) チャート式 DUAL SCOPE 総合英語 新訂版 (数研出版)						
副教材等	A 英検 2 級対策プリント 他 B 英検準 2 級対策プリント 他 C 英検準 2 級対策プリント 他 D 英検 3 級対策プリント 他						

1 学習の到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。他国の文化・歴史に触れることで視野を広げる。情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。英検の目標級に合格しましょう。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- A 英検 2 級に合格できる語彙力、読解力、リスニング力を身につけるだけでなく、日常的に英語を使う習慣を身につけましょう。
- B 英検準 2 級合格をめざし、文法の基礎力と応用力を身につけましょう。
- C 英検準 2 級の頻出単語・頻出熟語を定着させ、また英作の書き方を学び確実に目標級に合格する力を磨きましょう。毎回実施する小テストでは 8 割以上の点数を取れるよう、家庭学習をしましょう。
- D 英検の目標級の合格を目指して、過去問題に数多くあたり、文法面を強化しながら語彙力をつけていきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の 4 技能 (話す、書く、聞く、読む) について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	場面、目的、状況に応じて、日常的话题から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期中間	英語検定受験対策	文法 英作 リスニング	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a: 過去問に出題されている単語・熟語・英語構文を理解している。 b: 英作問題において自分の意見を英文で伝えることができる。 c: リスニング問題の内容を理解し、対応する力が身についている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果
1学期期末	Lesson15 分詞(2) Lesson16 比較(1)	分詞 比較	○ ○	○ ○	○ ○	a: 分詞が副詞的なはたらきをする用法である分詞構文を理解し、英文を書いたり話したりできる。 b: 否定形、受動態、完了形の分詞構文に書きかえたり話したりできる。 c: 原級、比較級を用いて英文を書いたり話したりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果
2学期中間	Lesson17 比較(2) Lesson18 関係詞(1)	比較 関係詞	○ ○	○ ○	○ ○	a: 最上級を用いた文章を書いたり話したりできる。また、最上級を表す原級・比較級を用いた英文を書いたり話したりできる。 b: 主格・目的格・所有格の関係詞を理解し、書いたり話したりできる。 c: 先行詞によって適切な関係詞を選び、英文を書いたり話したりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果
2学期期末	Lesson19 関係詞(2) Lesson20 関係詞(3)	関係詞	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a: 前置詞の目的語になる場合の関係詞の構造を理解し、英文を書いたり話したりできる。 b: 関係代名詞 what を使った慣用表現を用いた英文を訳したり書いたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果

						c: 関係副詞の制限用法と非制限用法を理解し、英文を書いたり話したりできる。	
3 学 期	Lesson21 仮定法(1) Lesson22 仮定法(2)	仮定法	○ ○	○ ○	○ ○	a: 仮定法の基本的な構造を理解し、 仮定法過去・仮定法過去完了を用いて英文を書いたり話したりできる。 b: 仮定法の慣用表現を理解し、英文を訳したり書いたり話したりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果

※第1回英語検定（5月30日）を団体受験します。

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科専攻選択コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	英語 コミュニケーションⅢ	単位数	5	選択等	必修
教科書	Grove English Communication Ⅲ（文英堂）						
副教材等	Grove English Communication Ⅲ授業ノート（文英堂） Grove English Communication Ⅲワークブック（文英堂） 英単語ターゲット 1400（旺文社） オンライン英会話 Chatty 即戦ゼミ 11 大学入試ベストポイント英語頻出問題 740（桐原書店）						

1 学習の到達目標

英語で書かれた文章を読み、言語や文化に対する理解を深め、情報や考えなどを的確に理解したり要約する能力を養い高校生として必要な文法力や語彙力を養う。各レッスンから外国や外国を通じた日本文化を学び見分を高める。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

英語を理解するために必要な英単語は日々蓄積していかなければなりません。複雑で難易度の高い英文に向き合うために必要なのは文法の知識だけではなく、英単語の暗記といかに向かい合うかが大切となります。毎週実施する単語テストや文法テストで、知識の定着を狙いましょう。また、自分の意見を英語で論理的に表現できるように日頃から取り組みましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
評 価 方 法	小テスト・定期考査	小テスト・定期考査・提出物 オンライン英会話	授業中の活動、発表 オンライン英会話 課題の提出 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	L1 L2 L3 L4 L5	Lesson1～5 関係詞節、疑問詞節を 含む文構造、様々な動 詞の時制、助動詞を含 む受け身、不定詞・動名 詞、分詞構文	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	I：各レッスンは下記の通り。 L1：Fashion revolution の活動と消費 について学ぶ。 L2：食品サンプルの歴史と活用について 読む。 L3：夢の実現のために努力する少年につ いて読む。SNS のあり方を考える。 L4：ソコトラ島について読み、イエメン や生物多様性について知る。 L5：Meat Free Monday の活動内容と背 景について読む。 II：内容が把握できているか。Think and Share で自分の意見を表現できている か。 III：授業、自由英作、またオンライン英 会話に積極的に取り組んでいるか。	学習態度 小テスト 定期考査 発問への反 応 自由英作課 題
1 学 期 期 末	L6 L7 L8 L9 L10	Lesson6～10 助動詞、分詞構文、不定 詞、比較、倒置の用法	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	I：各レッスンは下記の通り。 L6：カンボジアの竹車について読み、カ ンボジアやその歴史などを知る。 L7：各国の祝祭日前後の体重増加につい て読み、比較し理解する。 L8：琥珀の中の恐竜の羽毛について読 み、事実と意見の違いを理解する。 L9：マラリア対策について読み、感染症 やその対策について知る。	学習態度 小テスト 定期考査 発問への反 応 自由英作課 題 オンライン 英会話

					<p>L10 : 4 枚カード問題と確証バイアスについて読み、仮定の表現や論点の整理を学ぶ。</p> <p>Ⅱ : 内容が把握できているか。Think and Share で自分の意見を表現できているか。</p> <p>Ⅲ : 授業、自由英作、またオンライン英会話に積極的に取り組んでいるか。</p>	
2 学 期 中 間	L11 K12 L13 L14	Lesson11～14 前置詞＋関係代名詞、 分詞の形容詞的用法、 関係副詞、不定詞の用法	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	<p>Ⅰ : 各レッスンは下記の通り。</p> <p>L11 : スウェーデンのシルビア王妃と歌との関わりについて読む。</p> <p>L12 : オリンピックの競技種目について読み、オリンピックの意義やあり方を考える。</p> <p>L13 : オードリー・タン氏について読み、彼の考えや行動について知る。</p> <p>L14 : Earth Hour の活動について読み、地球温暖化や EV 推進について考える。</p> <p>Ⅱ : 内容が把握できているか。Think and Share で自分の意見を表現できているか。</p> <p>Ⅲ : 授業、自由英作、またオンライン英会話に積極的に取り組んでいるか。</p>	学習態度 小テスト 定期考査 発問への反応 自由英作課題 オンライン英会話
2 学 期 期 末	L15 L16 L17	Lesson 15～17 完了進行形、関係副詞の非制限用法、関係代名詞 what、seem to 不定詞、付帯状況の with の用法	○ ○ ○	○ ○ ○	<p>Ⅰ : 各レッスンは下記の通り。</p> <p>L15 : チョコレートの生産と児童労働について読み、その解決策について考える。</p> <p>L16 : フェイクニュースについて読み、メディアリテラシーの重要性を学ぶ。</p> <p>L17 : サグラダ・ファミリアとアントニ・ガウディについて読み、知る。</p> <p>Ⅱ : 内容が把握できているか。Think and Share で自分の意見を表現できているか。</p> <p>Ⅲ : 授業、自由英作に積極的に取り組んでいるか。</p>	学習態度 小テスト 定期考査 発問への反応 自由英作課題 オンライン英会話
3 学	L18 L19 L20	Lesson18～20 既習の文法事項を踏まえ、長めの英文読む。	○ ○ ○	○ ○ ○	<p>Ⅰ : 各レッスンは下記の通り。</p> <p>L18 : NASA で働いていた女性の職務と経歴について読み、人種や人権について</p>	学習態度 小テスト 定期考査

期					<p>学ぶ。</p> <p>L19 : Gorillas in Our Midst の実験について読み、錯覚や認知について知る。</p> <p>L20 : スーパーバル諸島にある種子貯蔵庫について読み、環境問題について学ぶ。</p> <p>II : 内容が把握できているか。Think and Share で自分の意見を表現できているか。</p> <p>III : 授業、自由英作に積極的に取り組んでいるか。</p>	<p>発問への反応</p> <p>自由英作課題</p> <p>オンライン英会話</p>
---	--	--	--	--	--	---

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3	選択等	必修
教科書	アクティブスポーツ（大修館）						
副教材等	なし						

1 学習の到達目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

生涯の中で健康寿命を延ばす為には適度な運動が必要です。運動をすると、さわやかな気分になったり心地よさを味わったりすることができます。また、体力の向上にもつながります。日常の生活の中に運動を取り入れたり、生涯にわたって運動に親しむことができるように、運動の仕方を身に付けながら運動のもつ楽しさを感じられるような授業を行います。

苦手なこともあるかとは思いますが、そのままにせず、出来ることを少しずつ増やしていく努力をしましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 また、個人及び社会生活にお	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。 また、個人及び社会生活における健康課題を発見し、その解決を目指して、総合的に考え、判	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 また、健康を優先し、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに関する学習活動に主体的に取り組もうとし

	ける健康・安全について、課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。	断し、それらを表現している。	ている
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期		集団行動 ラジオ体操 筋力トレーニング 陸上競技 ダンス	○	○	○	「知識・技能」 ・現代的なリズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることができる 「思考・判断」 ・ダンスの名称や用語，文化的背景と表現の仕方，体力の高め方，課題解決の方法，交流や発表の仕方などを理解し，グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる 「主体的」 ・ダンスに主体的に取り組むとともに，互いに共感し高め合おうとすること，役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること，合意形成に貢献しようとするなどや，健康・安全を確保することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応

2 学 期		<p>集団行動 ラジオ体操 筋力トレーニング 陸上競技</p>	○	○	○	<p>「知識・技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> 短距離走・リレーでは，中間走の高いスピードを維持して速く走ること，長距離走では，ペースの変化に対応するなどして走ること，ハードル走では，スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができる <p>「思考・判断」</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術の名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解し，自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方が工夫できる <p>「主体的」</p> <ul style="list-style-type: none"> 陸上競技に主体的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとする事，役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること，合意形成に貢献しようとする事などや，健康・安全を確保することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 確認テスト レポート 発問への対応
3 学 期		<p>集団行動 ラジオ体操 筋力トレーニング 球技</p> <ul style="list-style-type: none"> サッカー 野球 バスケットボール 	○	○	○	<p>「知識・技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴール型では，状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開することができる ベースボール型では，状況に応じたバット操作と走塁での攻撃，安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開することができる <p>「思考・判断」</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解し，チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる <p>「主体的」</p> <ul style="list-style-type: none"> 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとする事，役割を積極的に引き受け自己の責任 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況 確認テスト レポート 発問への対応

					を果たそうとすること，合意形成に貢献 しようとするなどや，健康・安全を 確保することができる	
--	--	--	--	--	--	--

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	公民	科目	倫理	単位数	2	選択等	必修
教科書	新倫理（清水書院）						
副教材等	なし						

1 学習の到達目標

- (1) 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。
- (3) 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。『倫理』の時間は、皆さんになるだけ興味をもってもらえるように授業を展開していきます。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	<p>・個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方について理解すること。</p> <p>・幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解すること。その際、人生</p>	<p>・自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。</p> <p>・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方</p>	<p>・生命、自然、科学技術・福祉、文化と宗教・平和などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述すること。</p>

	<p>における宗教や芸術のもつ意義についても理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観について理解すること。 ・真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観について理解すること。 ・古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解すること。 	<p>について多面的・多角的に考察し、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けること。 ・古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現すること。 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への姿勢、発問への対応 ・定期考査 ・課題への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への姿勢、発問への対応 ・定期考査 ・課題への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への姿勢、発問への対応 ・定期考査 ・課題への取り組み
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		

1 学 期 中 間	第 1 編 現 代 を 生 き る 自 己 の 課 題	個性的な主体としての自己 心と行動をめぐる探究	○	○	○	心の機能と個性 パーソナリティの形成と「私」 人間の活動を支える心 認知のしくみ 生涯にわたる発達	定期考査 宿題テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
1 学 期 期 末	第 2 編 人 間 と し て の 自 覚	哲学の始源 ：ギリシア思想 唯一神の宗教 ：キリスト教 ・イスラーム教 東洋思想の源流 ：仏教・儒教 芸術と倫理	○	○	○	神話から哲学へー自然哲学者たち 知と徳をめぐる問いーソクラテス 理想主義的なあり方ーアリストテレス 幸福をめぐる問いーヘレニズムの思想 愛の教えーキリスト教 ユダヤ教 イエスの思想 世界宗教への展開 戒律と平等の教えーイスラーム教 智慧と慈悲の教えー仏教 バラモン教 仏陀の思想 仏教とその後の展開 共同体の思想ー儒教・老荘思想 儒家の教え 儒教の展開 道家の思想	定期考査 宿題テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
2 学 期 中 間	第 3 編 現 代	近代の成立 世界と人間をめぐる探究	○	○	○	人間の尊厳 ルネサンスとヒューマニズム 宗教改革と人間の尊厳 人間の偉大と限界	定期考査 宿題テスト 授業中の発問に対する姿勢

	をかたちづくる倫理				真理の認識－経験論と合理論 近代科学の思考法 真実と経験の尊重－ベーコン 理性の光－デカルト 民主社会と倫理 社会契約説と啓蒙思想 人格の尊厳と自由－カント 自己実現と自由－ヘーゲル 幸福と功利 創造的知性と幸福 現代社会と個人 資本主義への批判 人間存在の地平－実存主義 世界と存在そのものへ－現象学 公共性と正義 社会参加と他者への奉仕 近代の世界観・人間観の問い直し 理性主義への反省 言語的転回 科学観の転換	授業態度 提出物
2 学 期 末	第4編：国際社会に生きる日本人としての自覚	日本の風土と精神文化	○	○	○ 日本人の人間観・自然観・宗教観 風土と日本人の生活 日本における神の観念 神と仏の出会い 日本人の仏教受容 古代仏教の思想 鎌倉仏教の思想 近世社会の思想 儒教の伝来と朱子学 陽明学 古学 国学と日本文化 近代庶民の思想 近代的国家への道 西洋近代精神の摂取 啓蒙思想家の活動 国家と個人の衝突 近代的個人の自覚 近代的自我の成立と個人主義 社会改革の思想	定期考査 宿題テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
		日本の近代化と人々の生き方				

						主体的な生き方と価値観の模索 近代日本の哲学者 近代日本の思想傾向への反省 現代日本と私たちの課題	
3 学 期	第 5 編: 現 代 に お け る 諸 課 題 の 探 究	自然や科学技術をめぐる諸課題 社会や文化にかかわる諸課題	○	○	○	環境と倫理 生命と倫理 科学技術の発展とその課題 文化や宗教の多様性と倫理 国際平和と人類の福祉	

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	選択等	必須
教科書	「論理国語」 (大修館書店)						
副教材等	ジャンプアップ高校漢字問題集 (東京書籍)						

1 学習の到達目標

様々なテーマの表論文、随筆を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

また、国語を適切に表現でき、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばしていく。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

様々なテーマの文章を通して、自らの物事に対する捉え方の幅を広げ、思考を深められるようにしましょう。また学習から得られた知識や知見を自身の読解力に活かすと同時に、コミュニケーション能力にも活かすことができるようにしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	論理の展開を工夫して説得力のある文章を書くことができ、言葉の決まりや適切な言葉遣い、漢字などについて理解し使ったりするとともに、現代思想に関心を持ち、効果的に自己の考えを表現する。	他者の考えや意見を傾聴し、目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。	国語で伝え表現する力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、他者の意見との差異を認め、言語活動を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間		<ul style="list-style-type: none"> ・「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ ・記号的メディアと物理的メディア 	○	○ ○	○	<p>文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。</p> <p>目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
1 学 期 期 末		<ul style="list-style-type: none"> ・ポスト真実時代のジャーナリズムの役割 ・人を指す言葉——自称詞・対称詞・他称詞 	○	○ ○	○	<p>論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学 期 中 間		<ul style="list-style-type: none"> ・政治を支える心構え ・「である」ことと「する」こと 	○ ○	○	○ ○	<p>言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。</p> <p>主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学 期 期 末		<ul style="list-style-type: none"> ・日常に走る亀裂 ・言語と他者 	○ ○	○	○ ○	<p>論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露

3 学 期		・ 日本文化の三つの時 間	○	○ ○	○ ○	<p>文章の種類を踏まえて、内容や構成，論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。</p> <p>自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露
-------------	--	------------------	---	--------	--------	---	---

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2	選択等	必須
教科書	「国語表現」 (大修館書店)						
副教材等	「国語表現 基礎練習ノート」						

1 学習の到達目標

対象を客観的・多角的に観察できるようになる。観察した内容を分析し、論理的に伝達する能力を獲得する。情報収集力、また発信力を高めることを目的として、分析、精確な言語感覚を養う。コミュニケーション能力の向上を求め、筆録のみならずプレゼンテーションの多様性を実践する。

- ・多角的に物事を捉え、根拠を明確化し考察する能力を育成する。
- ・課題に即して意見を表現し、構成する力を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

対象を的確に読み取る力を養うとともに、わかりやすく、説得力を持った文章を書けるようになりましょう。対象を多角的・多面的に把握し、そこに至るまでの自分の思考と結論を整理し、他者に正確に伝達できるようになってください。口頭発表や批評するためのコメントカード記入を求めることがあります。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	言葉の決まりや適切な言葉遣い、伝統的な言語文化に親しみ、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字をはじめとする記号に関心を持ち、効果的に文章を書いている	他者の考えや意見を傾聴し、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み、自己の意見を多角的に広げ構築する	国語で伝え表現する力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、他者の意見との差異を認め、言語活動を通して自己を向上させようとする
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		・実践トレーニング ・ビブリオバトルをしよう	○	○ ○	○	言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
1 学期 期末		・小論文とは何か ・面接にチャレンジ	○	○ ○	○	言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 中間		・自分を見つめて ・スピーチをしよう	○ ○	○ ○	○	言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 期末		・自分を見つめて ・グループディスカッションをしよう	○	○ ○	○	情報を正確に集め自己の意見の根拠、説得力のある表現方法を考え、他者に伝え協働することができる。 自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
3 学期		・データを読む ・論文を書くために	○	○ ○	○	情報を正確に集め自己の意見の根拠、説得力のある表現方法を考え、他者に伝え協働することができる。 自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』（本願寺出版社）						
副教材等	『日々の糧』 『聖典聖歌』						

1 学習の到達目標

宗教に関して単に知識をつめこむのではなく、自ら学び、自ら考える力を育む。自分自身をしっかりと見つめ直し、より充実した生き方を追及できるように学習する。また、学校生活における生徒間のかかわりの中から、感謝の気持ちと、思いやりの心を身につけ、心豊かな宗教的情操を育むことを目標とする。

3 学年の宗教では、浄土真宗を開かれた宗祖親鸞聖人の生涯を学び、また念仏の教えを通じて、人生に対する考え方の中で「生きる意味とその方向性」を見つめ直す。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

お釈迦様も、親鸞聖人も生身でこの世を生きた人間である。人間の苦をどのように受け止められ、人の世を観ておられたのか。生きる拠り所は何だったのか。その生涯を学びながら、私たちも、今一度自らと丁寧に向き合ってみよう。また、『日々の糧』からの気づき、「黙想」の習慣は、身口意を整える。習慣がその人を作る。しっかりと取り組んでいこう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	親鸞聖人の教えを正しく理解し、教えがどのように伝わっていくのか、その背景を正しく理解できているか。また、知識として理解を深めるだけでなく、理解を深めて人間性を養うことに繋がっているか。	親鸞聖人の生涯の学びにおいて、実社会や実生活と自己とのかかわりから、問を見出し、自分で課題をたてて情報を集め、整理、分析してまとめ、表現しているか。また、日々の糧を通じて自分の問題として受け止め、発信することができているか。	親鸞聖人の生涯を通じて自分自身の生き方と社会の在り方を考え直し、主体的に学ぶ姿勢がみられるか。
評 価 方 法	定期考査	パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 年間指導計画

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第一節 真実を求めています	オリエンテーション	○			I：平安時代・鎌倉時代における仏教の在り方を学び、その時代に起こった宗派についての知識を深めているか。 II：親鸞聖人に影響を与えた仏教の諸派についても学ぶ。また、日々の糧の内容について自分の問題としてとらえて表現できる。 III：仏教の祖師たちの教えを学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。	学期末に行う年4回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
		第3節 仏教の日本伝来 3 平安時代の仏教 4 鎌倉時代の仏教 まとめ 中間考査 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○	○		
1 学期 期末	第一節 真実を求めています	第4章 親鸞聖人の生涯（教えと人生） 1 誕生 2 親鸞聖人の出家 3 比叡山の修行 4 横川の不断念仏 まとめ 期末考査 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○	○	I：親鸞聖人がどのような経緯で出家に到ったのか、また、比叡山においてどのような生活を送っていたのかを理解している。 II：親鸞聖人が行った修行において、どのような気づきがあったのかを理解する。 III：親鸞聖人の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。	
2 学期 中間	第二節 念仏の道を歩む	5 六角堂の参籠 6 吉水入室 7 法然聖人の教え	○	○	○	I：親鸞聖人が流罪となってどのような生活の中から自分自身見つめていったのか理解している。 II：親鸞聖人が関東に伝道するに至った経緯についてまとめ、があったのか理解している。 III：親鸞聖人の生き方について学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。	
		第2節 法難と伝道 1 念仏弾圧 2 非僧非俗 3 愚禿の内省 4 結婚 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○	○		

2 学 期 末	第二節 念仏の道を歩む	5 関東への移住 6 生きた伝道 第3節 帰洛と晩年 1 親鸞聖人の帰洛 2 晩年の生活 3 親鸞聖人の往生 4 廟堂の建立 5 見真大師 6 報恩講 まとめ ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○		I：親鸞聖人の晩年の伝道生活にふれ、どのように念仏の教えがひろがったのかを理解する。 II：本願寺の発展について、資料をまとめ、発表する。 III：親鸞聖人の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。
			○	○		
3 学 期	第三節 真実の教え	第5章 念仏の教え 第1節 阿弥陀仏の本願 第2節 他力回向 第3節 信心と称名 まとめ 学年末考查※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○		I：親鸞聖人のみ教えから、浄土真宗の教えについて正しく理解している。 II：浄土真宗と他宗との違いを理解し、その違いを明確に説明できる。 III：親鸞聖人の念仏の教えから生き方について学び、それを自分に向けられた願いと受け止め、積極的に取り組むことができる。
			○	○	○	

2025 度 相愛高等学校 3 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	選択等	必修
教科書	大修館 704 文学国語						
副教材等	「常用国語便覧」(浜島書店)						

1 学習の到達目標

近代以降の随想や小説、様々な文章を読み解くことで、より豊かな感性を磨き上げたい。また、大学入試に向けて自らの考えをまとめる力を培っていききたい。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

小説は、登場人物の心情の変化を中心とした読解を行い、それに関連する登場人物の言動や出来事、情景などの推移を確認していく。内容把握に必要な接続詞、指示語、具体抽象、対比、言い換えなどを反復的に学びつつ、本文の主題、筆者の主張を読み解き理解していく。また記述問題や要約、小論文を書くことなどにも積極的に挑戦していく。

近代以降の様々な文章を表現に即して的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、言語や日本の文化に対する関心を深め、社会人として生活していく上で必要な資質を養いましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能(技術)	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	現代における重要な語や概念、あるいは漢字や修辞法などについて理解し使ったりするとともに、近現代の文学をその文学史的、そして歴史的な観点から正確に読解する。	指示語や接続詞、対比などを理解し読解に用いることで論理的な思考力を養い、自己の意見を表現するとともに、他者の主張を傾聴する力を涵養する。	国語を適切に使用して他者と積極的にコミュニケーションを取ることで、国語に対する見識を深め、協調性や協働性を養う。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	表現・寓話	随想 桜の中で、時が重なり合う 小説 赤い繭	○ ○	 ○	 ○	I：語彙を増やし、表現技法を理解している。 II：筆者の考えや行動を読みとり、情景をイメージしている。 III：筆者の主張について自分の考えを文章にまとめている。	・観察、自己評価、相互評価 ・ノート ・発言、発表
1 学期 期末	近代小説	小説 檸檬	 ○	 ○	 ○	I：語句の意味や表現技法を理解し、主人公の行動を把握している。 II：時間の経過や場面で変化する主人公の状況や言動、心境を把握している。 III：主人公の考えや行動に対する自分の意見を持ち、作品を主体的に鑑賞している。	・観察、自己評価、相互評価 ・ノート ・発言、発表
2 学期 中間	近代小説	小説 伊豆の踊り子	 ○	 ○	 ○	I：作者や文学史の知識を持っている。 II：時代背景を踏まえて、登場人物の言動や心境を理解している。 III：それぞれの登場人物の立場になって心境を想像し、作品を鑑賞している。	・観察、自己評価、相互評価 ・ノート ・発言、発表
2 学期 期末	近代小説	小説 舞姫	 ○	 ○	 ○	I：なじみのない漢語や表現を、注釈や辞書を手がかりにして理解している。 II：当時の国家や個人など登場人物の立場や考えを理解している。 III：文語体の作品に興味をもって取り組み、文章のリズムや響きを味わいながら鑑賞し、自分の感想をまとめている。	・観察、自己評価、相互評価 ・ノート ・発言、発表
3 学期	随想・評論	随想 陰翳礼讃	 ○	 ○	 ○	I：日本人の伝統的な美意識や東洋と西洋の美的感覚の違いについて述べた筆者の考察を理解している。 II：筆者の文章に興味を持ち、現代の文化との違いを把握している。 III：筆者の主張について理解し、自分の考えを文章にまとめている。	・観察、自己評価、相互評価 ・ノート ・発言、発表

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	合唱	単位数	2	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	楽譜プリント等。						

1 学習の到達目標

一緒に声を聴きあいながらハーモニーや音楽を作ることによって音楽的協調性を養う。演奏会本番での発表に向けて、生徒同士の意見交換をしながら曲を仕上げていくことで、演奏するだけでなく、練習課程の大切さを学ぶ。また、音楽の表現に必要な呼吸や歌詞の意味をどう表現に活かすのかを習得することで、技術や感性を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業で取り扱う楽曲が皆の心に響くよう、また合唱の素晴らしさと楽しさを感じて貰えたらと願っています。表現の仕方や呼吸の使い方は合唱だけでなく、自身の専攻の演奏にも通じるところがたくさんあると思いますので、ぜひ学んで活かしてください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。 互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。	音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。歌詞の内容をふまえて、音楽表現を考察し、楽曲により相応しい歌唱を目指すことができる。声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら演奏を追求するとともに、表現の多様性を学ぶことができる。	演奏発表の場を年に数回設け、その発表に向けて周りとの協力しながら積極的に作品に向き合う意欲がある。練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、主体的・協働的に表現力を高め合おうと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・実技試験	・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評

定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
前 期	乙 女 コ ン サ ー ト ・ 定 期 演 奏 会 合 唱 曲	・乙女コンサート 「君が君に歌う歌」	○	○	○	I：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。 II：歌詞の内容をふまえて、音楽表現を考察し、声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら表現できる。 III：演奏会での演奏曲では、発表に向けて周りとは協力しながら積極的に作品に向き合おうという意欲がある。練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
		・定期演奏会演奏曲 「ほらね、」 「相愛学園歌」	○	○	○		
後 期	卒 業 演 奏 会 ・ そ の 他 合	・卒業演奏会演奏曲	○	○	○	I：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。 II：歌詞の内容をふまえて、音楽表現を	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
		・その他合唱曲	○	○	○		

	唱 曲				<p>考察し、声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら表現できる。</p> <p>Ⅲ：卒業演奏会の演奏曲では、発表に向けて周りと協力しながら積極的に作品に向き合おうという意欲がある。練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。</p>	
--	--------	--	--	--	---	--

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	鑑賞研究	単位数	1	選択等	必修
教科書	音楽史を学ぶ 古代ギリシャから現代まで（教育芸術社）						
副教材等	Teams、metamoji、課題プリント等						

1 学習の到達目標

音楽作品についての鑑賞研究をととして、作曲家の意図を理解して鑑賞し、演奏する能力を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

毎回、担当が作成した課題曲のプリントに取り組んでもらいます。時代やジャンル、様式・形式等が多様な作品について鑑賞し、作曲家とその作品に関する歴史的意義とその解釈等総合的視点から捉えて学びます。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを歴史や理論などの明確な根拠と照らし合わせながら感受し、価値を認識できる。また、音楽に対する理解を深め、良さや美しさが創造力をもって感受できている。	各楽器や声の特徴を踏まえた解釈や演奏法、作曲家の表現上の特徴を必要となる資料を活用して情報収集し、判断でき、自らの演奏や言葉の表現に活用することができる。	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習を行い、互いに研究した解釈などを評価しあったりする活動に積極的に取り組もうとする。
評 価 方 法	定期考査 課題プリント	プレゼン課題への取り組み ノート内の思考・判断・表現	発問への反応・発言 定期考査による主体性の深まりの確認

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	ロ マ ン 派 初 期	・ 歌曲とその作曲家 ・ 性格的小品(キャラクターピース)とその他の器楽曲	○ ○	○ ○	○ ○	他者と協力して積極的に感想や考察を 発表することができる。 原曲が作曲された作曲者の意図や時代の 様式を理解する事が出来る。 演奏家の演奏について根拠のある批評 をすることができ、良さを解説すること ができる。	学習態度 確認テスト 発問の反応 課題
1 学 期 期 末	ロ マ ン 派 初 期	協奏曲や標題交響曲	○	○	○	他者と協力して積極的に感想や考察を 発表することができる。 原曲が作曲された作曲者の意図や時代の 様式を理解する事が出来る。 演奏家の演奏について根拠のある批評 をすることができ、良さを解説すること ができる。	学習態度 確認テスト 発問の反応 課題
2 学 期 中 間	ロ マ ン 派 盛 期・ 後 期	・ ドイツ・ロマン主義の 音楽 ・ オペラについて	○ ○	○ ○	○ ○	他者と協力して積極的に感想や考察を 発表することができる。 原曲が作曲された作曲者の意図や時代の 様式を理解する事が出来る。 演奏家の演奏について根拠のある批評 をすることができ、良さを解説すること ができる。	学習態度 確認テスト 発問の反応 課題
2 学 期 期 末	ロ マ ン 派 盛 期・ 後 期	国民楽派の音楽と民族 主義音楽	○	○	○	他者と協力して積極的に感想や考察を 発表することができる。 原曲が作曲された作曲者の意図や時代の 様式を理解する事が出来る。 演奏家の演奏について根拠のある批評 をすることができ、良さを解説すること ができる。	学習態度 確認テスト 発問の反応 課題
3 学 期	近 代・ 現 代 の 音 楽	・ 印象主義音楽 ・ 日本人の作曲家と その作品	○ ○	○ ○	○ ○	他者と協力して積極的に感想や考察を 発表することができる。 原曲が作曲された作曲者の意図や時代の 様式を理解する事が出来る。 演奏家の演奏について根拠のある批評 をすることができ、良さを解説すること ができる。	学習態度 確認テスト 発問の反応 課題

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	音楽理論	単位数	2	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	プリント						

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試に向けて楽典を復習し、応用ができるようにする。 ・和声法において、属七の和音について学ぶ。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<p>楽典については、まず復習に力を入れるので、わからないことを残したままにしないよう取り組んでほしい。そのうえで入試問題に取組める力を付けてほしい。</p> <p>和声法は 2 年次に出来なかった属七の和音のまとめについて学ぶ。</p>

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音楽の基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付ける。	音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力を育成する。	和声法や楽典を学ぶことで音楽を理論的にとらえて、表現や鑑賞に活かそうとする態度を養う。
評 価 方 法	学習状況 発問への対応 定期考査	学習状況 発問への対応 定期考査	学習状況 発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
		I	II	III		

1 学 期 中 間	和 声 法 ・ 楽 典 基 礎	属七の和音 各転回位置 音程の基礎と応用 音階について	○ ○	○ ○	○ ○	属七の和音の配置と連結についての知識を確認し、実践する。 1 年時に履修した楽典の基本的な知識を確認し、実際に練習問題に取り組む力を身に付ける。 長音階と短音階についての確認	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
1 学 期 期 末	楽 典 基 礎	音階と調について 和音 移調 調判定	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	音階と関係調について確認し、基礎問題に取り組む。 和音についての知識を確認し、基本問題に取り組む力を身に付ける。 移調楽器も視野に入れ、さまざまな調への移調を実践する。 旋律の調判定に取り組む。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
2 学 期 中 間	楽 典 応 用	入試問題 私学の問題を中心に	○	○	○	実際に大学入試の問題に取り組み、すべての課題をやりこなす力を身に付ける。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
2 学 期 期 末	楽 典 応 用	入試問題 国公立の問題を中心に	○	○	○	国公立大学の問題を中心に、課題をやりこなす力を身に付ける。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
3 学 期	和 声 法 ・ 楽 語	属七の和音（復習） 借用和音 楽語問題	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	和声法の総括を通して、転調を伴わないバス課題を実践する力を身に付ける。 3 年間を通して、自身の表現に必要な楽語をどの程度理解できているか確認する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	音楽史	単位数	1	選択等	必修
教科書	音楽史を学ぶ 古代ギリシャから現代まで（教育芸術社）						
副教材等	音楽辞典、CD、YouTube 等						

1 学習の到達目標

日本を含む諸外国の音楽の歴史について理解を深め、音楽の文化的価値を意識し、そのことにより広い視野で芸術をとらえる能力を養う。日頃の演奏活動と大いに関係のある作曲家や作品はもとより、そこに至るまでの先駆者的作曲家や音楽様式を振り返ることにより、自らの音楽表現を身に付ける。各時代がもつ特徴や様式を学習することで、日頃の鑑賞や演奏に大いにそれらを役立てて欲しい。また、諸外国に目を向け、それぞれの国民性の上に成り立つ音楽について理解を深め民族音楽への関心も深めてほしいと考えています。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

各時代がもつ特徴や様式を学習することで、日頃の鑑賞や演奏に大いにそれらを役立てて欲しい。また、諸外国に目を向け、それぞれの国民性の上に成り立つ音楽について理解を深め民族音楽への関心も深めてほしいと考えています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	西洋音楽・日本音楽の歴史についての基本的な事柄に関する知識を生かして音楽の諸要素を感じ取り、作曲家と作品の価値を理解する能力を身に付けている。	音楽の発展の歴史を思考し、各時代における様式を正しく判断する力とそれらを言葉や文章で表現することができる。	西洋音楽・日本音楽の歴史に対する関心と課題意識を高め、主体的に学習に取り組もうとする。定期 考査
評 価 方 法	課題プリント 定期考査 課題プリント	プレゼン課題への取り組み ノート内の思考・判断・表現	発問への反応・発言 定期考査による主体性の深まり の確認

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単元名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	ロマン 派初期 の音楽	・19世紀ロマン派音楽 について ・性格的小品(キャラクター ピース) について	○	○ ○	○	I. ロマン派初期の音楽の歴史的背景を知り、音楽の諸要素をとおしてロマン派音楽作品の価値を理解することができる。 II. 性格的小品についての必要な資料を収集した後分析し、有用な情報を選択して読み取り、重要事項をまとめたり文章として表現したりすることができる。 III. ロマン派初期の音楽様式、特にキャラクターピース作品の数々に対する関心と課題意識を高め、それらについて自らが主体的に学習に取り組もうとしている。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
1 学 期 期 末	ロマン 派初期 の音楽	・ロマン派初期の作曲家とその作品 ・ドイツリート、標題音楽について	○	○ ○	○ ○	I. ロマン派初期の音楽の歴史的背景を知り、音楽の諸要素をとおしてシューベルトやメンデルスゾーンの作品の価値を理解することができる。 II. ドイツリート、標題音楽についての必要な資料を収集した後分析し、有用な情報を選択して読取り、重要事項をまとめたり文章として表現したりすることができる。 III. ロマン派初期の作曲家に対する関心と課題意識を高め、特にシューベルトやメンデルスゾーンの業績について自らが主体的に学習に取り組もうとしている。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
2 学 期 中 間	ロマン 派 盛 期・後 期の音 楽	・ロマン主義の作曲家 とその作品	○	○	○	I. ロマン派盛期の歴史的および文化的背景を知り、音楽の諸要素をとおしてリストやヴァーグナー、ブラームスの作品の価値を理解することが出来る。 II. 交響詩や楽劇についての必要な資料を収集し、有用な情報を選択して読取り、重要事項をまとめたり文章として表	学習態度 定期考査 発問の反応 課題

		・新ドイツ楽派とブラームスについて	○	○	○	現したりすることができる。 Ⅲ. ロマン派盛期の音楽に対する関心と課題意識を高め、リストやヴァーグナー、ブラームス等の業績について自らが主体的に学習に取り組もうとしている。	
2 学 期 期 末	ロマン派盛期・後期の音楽	・国民楽派およびその他諸外国の音楽 ・ロシア5人組と東欧、北欧の作曲家について	○	○	○	Ⅰ. 19世紀諸外国の歴史および音楽史の背景を知り、音楽の諸要素をとおしてムソルグスキー、スメタナ、ドヴォルザーク等の作品の価値を理解することができる。 Ⅱ. ロシアや東欧、北欧等の音楽史に関する必要な資料を収集した後分析し、有用な情報を選択して読取り、重要事項をまとめたり文章として表現したりすることができる。 Ⅲ. 19世紀の諸外国、東欧やロシア、北欧といった国々の音楽に対する関心と課題意識を高め、特にロシア5人組やスメタナ、ドヴォルザーク等の業績について自らが主体的に学習に取り組もうとしている。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
3 学 期	近代・現代の音楽	・印象主義音楽や原始主義音楽について ・音楽作品におけるオリエンタリズムについて	○	○	○	Ⅰ. 西洋の近代・現代音楽の歴史的背景やオリエンタリズムの影響を知り、音楽の諸要素をとおして特にドビュッシーやムソルグスキーの作品を理解することができる。 Ⅱ. 印象主義や原始主義および東洋の音楽の必要な資料を収集した後分析し、有用な情報を選択して読取り、重要事項をまとめたり文章として表現したりすることができる。 Ⅲ. 印象主義音楽や原始主義、さらにオリエンタリズムに対する関心と課題意識を高め、特にドビュッシーやストラヴィンスキーの業績について自らが主体的に学習に取り組もうとしている。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	演奏研究	単位数	2	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	楽譜プリント等						

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・既製の曲を演奏するだけでなく、楽器・組み合わせなどに応じた曲のアレンジを行い、音楽に対する理解を深める。 ・本校独自の編曲によるオーケストラ演奏に取り組み、皆で合奏することを経験し勉強する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

各グループに分かれて授業を行います。自分の専攻だけではなく、他専攻について学習し、共に曲の理解を深め、演奏表現を高めていってほしいと思います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	楽曲に相応しい奏法で演奏することができ、正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、忠実に演奏することができる。	音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。また、楽曲の文化的・歴史的背景や様式をふまえた総合的な演奏表現ができる。時代や地域、作曲家、声や楽器の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら様式等に則した演奏を追求するとともに、解釈の多様性を学ぶことができる。	楽曲の文化的・歴史的背景や様式を考察し、作品における解釈を演奏に結びつけながら表現しようとする意欲的である。生徒同士のアンサンブルにおいては、積極的に意見交換するなど互いの考えを尊重し、主体的・協働的に表現力を高め合おうとする意欲的である。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
前期	室内楽・合奏	室内楽 グループごとに演奏表現を高める。楽曲背景も反映させながら、他者と合わせる力を身に付ける。	○	○	○	I：それぞれの楽曲に相応しい奏法で演奏することができ、正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、忠実に演奏することができる。 II：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考察できる。また、楽曲の文化的・歴史的背景や様式をふまえた総合的な演奏表現ができる。 III：生徒同士のアンサンブルにおいては、積極的に意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
		合奏 J. シベリウス 作曲 「フィンランディア」 定期演奏会曲目オーケストラ・合唱の練習。 各楽器パートの練習から取り組み、合奏に結びつける。	○	○	○		
後期	室内楽	室内楽 グループごとに演奏表現を高める。 授業内で公開実技試験を行う。	○	○	○	I：それぞれの楽曲に相応しい奏法で演奏することができ、正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、忠実に演奏することができる。 II：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考察できる。また、楽曲の文化的・歴史的背景や様式をふまえた総合的な演奏表現ができる。 III：生徒同士のアンサンブルにおいては、積極的に意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	学校設定科目	科目	コンピューター音楽	単位数	1	選択等	必修
教科書	事前に準備した課題プリントなどを使用 楽譜制作ソフト Finale を使用						
副教材等	事前に準備した課題プリント 音源 映像などを使用						

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターを使って各自で個性豊かな音楽を表現し、美しい楽譜の作成ができるようにする。 ・基本的なコンピューターの操作を学ぶ ・楽譜制作ソフト Finale の使い方、楽譜入力の仕方を学ぶ。 ・楽譜を作成する際に簡単なアレンジをできるようにする。 ・完成した楽譜をコンピューターで再生し皆の前で発表することにより楽譜作成の到達感を感じる。
--

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

楽譜作成、音楽制作をコンピューターを使用して表現することへのチャレンジ精神とそこから生まれる新たな自分の音楽の可能性を見つけて下さい。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	<p>【表現】</p> <p>音楽を伝え残すためには楽譜は必須で、文字と同じように音符には決まりや表現のコマンドがたくさんあります。今まで楽譜を見て演奏し歌っていた楽譜には様々な表現が記譜されているということを、楽譜作成という立場で知っていく事が重要です。</p> <p>【観賞】</p> <p>作成完成した楽譜をコンピューターで再生して聞いてみると様々な事を感じるはずです。クラスメートの作成した楽譜にも観賞することで気づきがあるはずです。</p>	<p>【表現】</p> <p>五線に置かれた音符を実際に演奏する時、見やすく分かりやすく音楽表現記号が入っている美しい楽譜を作ることは大切です。</p> <p>【鑑賞】</p> <p>作成した楽譜をコンピューターで音源として再生することの楽しさを感じる。</p> <p>【共通事項】</p> <p>音楽を表現し具現化しそれを多くの人に演奏してもらうためには楽譜は必須で細かい指示をしないと演奏出来ないということを理解して作成する。</p>	<p>【表現・鑑賞】</p> <p>主体的・積極的にコンピューター操作とソフトの使い方を学び創作活動に取り組もうとしている。</p>

	【共通事項】 音符を並べただけの楽譜では美しい表現ができないことを楽譜作成の過程で理解することは重要。 作成した楽譜のデータの保存や扱いはとても重要です。		
評価方法	定期考査はありません。楽譜の完成度、取り組みの授業態度などで評価します。	定期考査はありません。楽譜の完成度、取り組みの授業態度などで評価します。	完成した楽譜データ提出の締め切りを守って積極的に取り組む態度や提出物の内容で評価します。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	操作と使い方	コンピューターの操作、ソフト操作の理解	○	○	○	コンピューターの基本操作が出来るか、ソフトの起動から入力方法が理解できているか。	学習態度
		音符入力の基本、応用、既存の楽譜の入力	○	○	○		
		楽譜制作ソフト Finale の理解と実行	○	○	○	音符入力の基本操作ができていないか、応用も含めて理解し使いこなせているか。	学習態度
		楽譜入力の楽曲素材は事前に用意した楽譜を見て入力を進める。	○	○	○	ソフトで入力した作業をその時間の最後に失うことなく保存できているか？	学習態度
						生徒のレベルと興味を鑑みてバンド形式の楽譜を入力し、管弦打楽器、キーボード、ボーカルのパートを網羅する。	学習態度 提出楽譜の出来栄 提出期限

2 学 期	任 意 の 楽 曲 の 楽 譜 制 作	1 学期で基本操作は身についているので 任意の好きな曲の楽譜を制作する。	○	○	○	自分の好きなジャンルの楽曲の楽譜を制作入力する。 編成、アレンジは自由とする。	学習態度
		楽曲の編成、アレンジは自由とする。	○	○	○	自分が興味を持っているジャンルの楽曲を主体的・積極的にリサーチ分析して編成や長さ、表現などを自由に考えて新しい楽譜を作成する。	学習態度 提出楽譜の 出来栄え 提出期限
3 学 期	作 品 発 表 鑑 賞 会	データ提出、作品発表、印刷、音源の書き出しなどできるようにする。 各学期、習熟度、完成度により余裕があると判断した場合は作成した音源を使い映像とのコラボ、ミュージックビデオの制作まで領域を広げることもある。	○	○	○	主体的・積極的に楽譜制作の学習活動に取り組み出来た楽譜を使つての合奏やコラボに発展できるようにする。	学習態度 提出楽譜の 出来栄え

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	ソルフェージュⅡ	単位数	1	選択等	必修
教科書	コールユーブンゲン（大阪開成館発行）						
副教材等	視唱ステップアップ（全音楽譜出版社）、新曲視唱用プリント						

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。 ・音感やリズム感を養い、読譜力の向上につなげる。 ・正しい音程を身に付け、また音程を正しく聴き取る力を培う。 ・新曲視唱では素早く読譜し、正確に視唱できる力を養う。
--

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<p>個人のレベルに合わせたグループレッスンを行います。コールユーブンゲンや新曲視唱で歌唱力、正しい音感やリズム感を養ってください。それらは専攻実技も含め、全ての音楽専門教科に通じます。不得意な場合も諦めず、続けて努力していきましょう！きっと多くの知識と能力が身につくはずです。</p>

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	譜表に書かれた楽譜を見て、音楽を形づくっている要素を正しく読み取り、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、旋律やフレーズのまとまりなど様々な情報を読み取り、歌唱に活かすことができる。	音高や音程、リズムなどを正しく把握し、旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚といった豊かな表現をもって歌うことができる。	音高やリズムを正しく表現できるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に活用しようと意欲的である。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・発問への対応
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
前期	短調の和音練習と半音階	コールユーブンゲン No.78～86 h moll, fis moll, cis moll, gis moll as moll, es moll, b moll, f moll c moll 新曲視唱 A dur, fis moll, Es dur, c moll	○	○	○	I：各短調の和音や和声をよく感じながら、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、和声的短音階や旋律的短音階の歌唱力を取得し、それらを踏まえながら臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。 II：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。 III：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱ではさまざまな種類の曲を自発的に取り組める。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
後期	臨時記号と総復習	コールユーブンゲン No.87 まで e moll, es moll 新曲視唱 調号 3 つまでの長調と短調、伴奏付き視唱	○	○	○	I：各短調の和音や和声をよく感じながら、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、各調における短音階や和声を踏まえながら臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。 II：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。 III：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱ではさまざまな種類の曲を自発的に取り組める。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	ソルフェージュ I	単位数	2	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	五線ノート						

1 学習の到達目標

基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。音感、リズム感等を養い、読譜力の向上につなげる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

個人のレベルに合わせたグループレッスンを行います。不得意な場合も諦めず、続けて努力してみてください。授業で書き取った旋律や和音は必ず、清書してピアノで弾いたり、歌ってみましょう。リズムや音感など定着します。聴音が出来るようになると、専攻実技の演奏も必ず伸びます。頑張ってください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。 音楽を形づくっている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。	音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。	旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		

前期	旋律聴音	高音部譜表 低音部譜表 (ニ長調、変ロ長調、 ロ短調、ト短調、 変ホ長調、ハ短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子	○	○	○	I：音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。 音楽を形づくっている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。 II：音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。 III：旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応
	複旋律・和音聴音	2声旋律聴音 大譜表 (ト長調、ホ短調、 ヘ長調、ニ短調 ハ短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子 4声体和音聴音 大譜表 (ハ長調他) 密集配置・開離配置 拍子 2分の2拍子	○	○	○		
後期	旋律聴音	高音部譜表 低音部譜表 アルト譜表 (イ長調、変ホ長調、 ロ短調、ト短調、 ハ短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子	○	○	○	I：音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。 音楽を形づくっている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。 II：音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。 III：旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応
	複旋律・和音	2声旋律聴音 大譜表 (ニ長調、ロ短調、 変ロ長調、ト短調	○	○	○		

		ハ短調) 拍子 4 分の 4 拍子 4 分の 3 拍子 8 分の 6 拍子 4 声体和音聴音 大譜表（ハ長調他） 密集配置・開離配置 拍子 2 分の 2 拍子	○	○	○		
--	--	--	---	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	学校設定	科目	和楽器（箏曲）	単位数	1	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	楽譜・プリント等を適宜配布						

1 学習の到達目標

生田流箏曲の基本的な知識及び演奏法の学習をとおして箏特有の美しい音色や響きを味わい、邦楽に親しむ態度を養うとともに自身の音楽観を広げることがめざす。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

基礎を大切に、一段ずつステップアップしていきましょう。

疑問に思ったことは、授業時間内に解決するように努めるとともに、自ら課題を見出して主体的に取り組みましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	<p>◆基本的な箏の奏法を修得している。</p> <p>◆箏の各種奏法を理解し、箏譜（縦書き枠式）を読み、正しい運指で演奏することができる。</p> <p>◆調弦法を理解している。</p>	<p>◆箏の音色と奏法との関わりを理解し、各種奏法を用いて曲想にあった表現を工夫することができる。</p> <p>◆箏に関わる知識・技能を総合的に働かせながら、個性豊かに表現を創意工夫することができる。</p>	<p>◆箏の音色や奏法に関心を持ち、知識・技能の修得にむけて自ら課題を設定し、意欲的・主体的に取り組んでいる。</p>
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・実技試験 ・小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期	初めての 箏	【さくらさくら】を題材に、①箏の基本奏法 ②各種奏法③調弦方法を学ぶ。	○	○	○	◆箏譜（縦書き枠式）を読み、正しい運指で演奏することができる。 ◆平調子に調弦することができる。 ◆各種奏法を用いて、【さくらさくら】の曲想にあった表現を工夫することができる。 ◆箏の音色や奏法に関心を持ち、知識・技能の修得に向けて自ら課題を設定し、意欲的・主体的に取り組んでいる。	学習態度 実技試験 小テスト
2 学 期	箏曲に親しむⅠ（童謡）	乃木調子や楽調子など律音階を使った簡単な童謡を題材に、①読譜力・演奏技術を高めるとともに②五音音階と箏の調子の成り立ちや転調の仕組みを理解する。	○	○	○	◆箏譜（縦書き枠式）を読み、正しい運指で演奏することができる。 ◆簡単な曲の初見試奏ができる。 ◆律音階を使った箏の調子を合わせることができる。 ◆箏に関わる知識・技能を総合的に働かせながら、個性豊かに表現を創意工夫することができる。 ◆箏の音色や奏法に関心を持ち、知識・技能の修得にむけて自ら課題を設定し、意欲的・主体的に取り組んでいる。	学習態度 実技試験 小テスト
3 学 期	箏曲に親しむⅡ（六段）	【六段】を題材に、「ヒキ色」や「ツキ色」等、左手での余韻の操作を学びつつ箏曲・及び箏の特徴を体感し、「余韻の変化」・「間」のとり方など邦楽の特徴を理解する。	○	○	○	◆箏譜（縦書き枠式）を読み、正しい運指で演奏することができる。 ◆邦楽独自の音楽表現を感じながら、様々な奏法を用いて箏曲を演奏することができる。 ◆箏に関わる知識・技能を総合的に働かせながら、個性豊かに表現を創意工夫することができる。	学習態度 実技試験 小テスト

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	外国語（英語）	科目	コミュニケーション 英語Ⅲ	単位数	5	選択等	必修
教科書	Grove English Communication Ⅲ（文英堂）						
副教材等	Grove English Communication Ⅲ授業ノート（文英堂） Grove English Communication Ⅲワークブック（文英堂） 英単語ターゲット 1400（旺文社） オンライン英会話 Chatty 差し込み教材（プリント）						

1 学習の到達目標

英語で書かれた文章を読み、言語や文化に対する理解を深め、情報や考えなどを的確に理解したり要約する能力を養い高校生として必要な文法力や語彙力を養う。各レッスンから外国や外国を通じた日本文化を学び見分を高める。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

英語を理解するために必要な英単語は日々蓄積していかなければなりません。複雑で難易度の高い英文に向き合うために必要なのは文法の知識だけではなく、英単語の暗記といかに向かい合うかが大切となります。毎週実施する単語テストや文法テストで、知識の定着を狙いましょう。また、自分の意見を英語で論理的に表現できるように日頃から取り組みましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
評 価 方 法	小テスト・定期考査	小テスト・定期考査・提出物	授業中の活動、発表 課題の提出 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	L1 L2	Lesson1～2 関係詞節、疑問詞節を 含む文構造 差し込み教材	○	○	○	I：各レッスンは下記の通り。 L1：Fashion revolution の活動と消費 について学ぶ。 L2：食品サンプルの歴史と活用について 読む。 II：内容が把握できているか。Think and Share で自分の意見を表現できている か。 III：授業、自由英作、またオンライン英 会話に積極的に取り組んでいるか。 文の種類、文の組み立て	学習態度 小テスト 定期考査 発問への反 応 自由英作課 題 提出物
1 学 期 期 末	L3 L4 L5 L6	Lesson3～6 時制、進行形、分詞構 文、仮定法、受け身、動 名詞、同格の that、助 動詞	○	○	○	I：各レッスンは下記の通り。 L3：夢の実現のために努力する少年につ いて読む。SNS のあり方を考える。 L4：ソコトラ島について読み、イエメン や生物多様性について知る。 L5：Meat Free Monday の活動内容と背 景について読む。 L6：カンボジアの竹車について読み、カン ボジアやその歴史などを知る。 II：内容が把握できているか。Think and Share で自分の意見を表現できている か。 III：授業、自由英作、またオンライン英	学習態度 小テスト 定期考査 発問への反 応 自由英作課 題 提出物

						会話に積極的に取り組んでいるか。	
学期中間	L7 L8 L9 L10	L7～L10 不定詞、比較、倒置の用法、完了形、分子の形容詞的用法	○	○	○	I：各レッスンは下記の通り。 L7: 各国の祝祭日前後の体重増加について読み、比較し理解する。 L8：琥珀の中の恐竜の羽毛について読み、事実と意見の違いを理解する。 L9：マラリア対策について読み、感染症やその対策について知る。 L10：4 枚カード問題と確証バイアスについて読み、仮定の表現や論点の整理を学ぶ。 II：内容が把握できているか。Think and Share で自分の意見を表現できているか。 III：授業、自由英作、またオンライン英会話に積極的に取り組んでいるか。	学習態度 小テスト 定期考査 発問への反応 自由英作課題 提出物
2 学期期末	L11 L12 L13 L14	Lesson11～14 前置詞＋関係代名詞、分詞の形容詞的用法、関係副詞、不定詞の用法	○	○	○	I：各レッスンは下記の通り。 L11：スウェーデンのシルビア王妃と歌との関わりについて読む。 L12：オリンピックの競技種目について読み、オリンピックの意義やあり方を考える。 L13：オードリー・タン氏について読み、彼の考えや行動について知る。 L14：Earth Hour の活動について読み、地球温暖化や EV 推進について考える。 II：内容が把握できているか。Think and Share で自分の意見を表現できているか。 III：授業、自由英作に積極的に取り組んでいるか。	学習態度 小テスト 定期考査 発問への反応 自由英作課題 提出物
3 学期	L15 L16 L17	Lesson 15～17 完了進行形、関係副詞の非制限用法、関係代名詞 what、seem to 不定詞、付帯状況の with の用法	○	○	○	I：各レッスンは下記の通り。 L15：チョコレートの生産と児童労働について読み、その解決策について考える。 L16：フェイクニュースについて読み、メディアリテラシーの重要性を学ぶ。 L17：サグラダ・ファミリアとアントニ・ガウディについて読み、知る。	学習態度 小テスト 定期考査 発問への反応 自由英作課題 提出物

						<p>Ⅱ：内容が把握できているか。Think and Share で自分の意見を表現できているか。</p> <p>Ⅲ：授業、自由英作に積極的に取り組んでいるか。</p>	
--	--	--	--	--	--	---	--

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3	選択等	必修
教科書	アクティブスポーツ（大修館）						
副教材等	なし						

1 学習の到達目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

生涯の中で健康寿命を延ばす為には適度な運動が必要です。運動をすると、さわやかな気分になったり心地よさを味わったりすることができます。また、体力の向上にもつながります。日常の生活の中に運動を取り入れたり、生涯にわたって運動に親しむことができるように、運動の仕方を身に付けながら運動のもつ楽しさを感じられるような授業を行います。

苦手なこともあるかとは思いますが、そのままにせず、出来ることを少しずつ増やす努力をしましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 また、個人及び社会生活における健康・安全について、課	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。 また、個人及び社会生活における健康課題を発見し、その解決を目指して、総合的に考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 また、健康を優先し、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに関する学習活動に主体的に取り組もうとしている

	題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期		集団行動 ラジオ体操 筋力トレーニング ダンス	○	○	○	「知識・技能」 ・現代的なリズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることができる 「思考・判断」 ・ダンスの名称や用語，文化的背景と表現の仕方，体力の高め方，課題解決の方法，交流や発表の仕方などを理解し，グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる 「主体的」 ・ダンスに主体的に取り組むとともに，互いに共感し高め合おうとすること，役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること，合意形成に貢献しようとするなどや，健康・安全を確保することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応

2 学 期		<p>集団行動 ラジオ体操 筋力トレーニング 陸上競技</p>	○	○	○	<p>「知識・技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短距離走・リレーでは、中間走の高いスピードを維持して速く走ること、長距離走では、ペースの変化に対応するなどして走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができる <p>「思考・判断」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方が工夫できる <p>「主体的」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応
3 学 期		<p>集団行動 ラジオ体操 筋力トレーニング 球技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー ・キックベースボール 	○	○	○	<p>「知識・技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開することができる ・ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開することができる <p>「思考・判断」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる <p>「主体的」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応

					を果たそうとすること，合意形成に貢献しようとするなどや，健康・安全を確保することができる	
--	--	--	--	--	--	--

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	地歴科	科目	歴史総合	単位数	2	選択等	必修
教科書	『歴史総合』（実教出版）						
副教材等	『新歴史総合要点ノート』（啓隆社）、授業プリント						

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史は一人の英雄の力だけで創り出されるものではなく、我々と同じような人々の営みが蓄積された結果です。当時の世界を一生懸命に生きていた人々のことを少しでも感じてもらうため、様々なネタをかき集め、時には、俗説、奇説、私説をまじえていきます。受験対応だけでなく、歴史を切り口に学問の面白さ、楽しさを伝えることができれば幸いです。また、知識を追い求めるよりも、今後に活用できる見方・考え方の育成を重視します。それらの成果をあげるため、皆さんの主体的な取り組みを強く求めます。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそ の中の日本を広く相互的な視 野から捉え、現代的な諸課題の 形成に関わる近現代の歴史を 理解する。 技能：諸資料から歴史に関する 様々な情報を適切かつ効果的 に調べまとめる技能を身に付 けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる 事象の意味や意義、特色など を、時期や年代、推移、比較、 相互の関連や現在とのつなが りなどに着目して、概念などを 活用して多面的・多角的に考察 したり、歴史に見られる課題を 把握し解決を視野に入れて構 想したりする力や、考察、構想 したことを効果的に説明した り、それらを基に議論したりす る力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる 諸事象について、よりよい社会 の実現を視野に課題を主体的 に追究、解決しようとする態度 を養うとともに、多面的・多角 的な考察や深い理解を通して 涵養される日本国民としての 自覚、我が国の歴史に対する愛 情、他国や他国の文化を尊重す ることの大切さについての自 覚などを深める。
評 価 方 法	定期考査・宿題テスト	定期テスト レポート 授業中の発表内容	定期テスト レポート 授業中の取り組み

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元・題材の評価基準	評価方法
			a	b	c		
一学期前半	諸地域世界の形成	東アジア	○			中国王朝と皇帝による支配について理解している。 中国中心の朝貢貿易による国際秩序と自由貿易の考え方の相違を理解している。	定期テスト グループ協議
		南アジア・東南アジア	○			仏教やヒンドゥー教を核とする南・東南アジア世界の特徴を理解している。 ヨーロッパ人が香辛料を求めて、南・東南アジアに進出したことを理解している。	
		西アジア	○			オリエントでおこった文明と大帝国の興亡を理解している。 イスラーム世界の成立と発展を地図資料と合わせて理解している。	
第1章 結びつく世界		1. アジア諸地域の繁栄と日本	○	○	○	16世紀におけるアジア各地の大帝国の繁栄と、ヨーロッパ諸国のアジア交易への進出を理解している。 琉球王国とアイヌが東アジアで果たした役割を理解している。 アジア各地に成立した大帝国を比較し、その特徴を考察し、表現している。 江戸時代の日本の対外貿易を、世界的観点から再構築しようとしている。	定期テスト レポート グループ協議 授業中の発表
		2. ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	○	○	○	ヨーロッパで成立した主権国家体制と、イギリスやフランスなど各国の国家の特徴について理解している。 15～16世紀にかけてのヨーロッパ人による航海と探検について理解している。 宗教改革とヨーロッパ人の海外進出、宗教改革、科学革命の結びつきについて考察している。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表

						ヨーロッパ人の海外進出によって、アメリカ・アフリカ大陸に与えた影響を考察している。 ヨーロッパの中央集権国家体制成立と海外進出の結びつきを追究している。 大航海時代による世界の一体化と、現代の グローバル化の共通点と相違点を見出そうとしている。	
一 学 期 後 半	第 2 章 近 代 ヨ ー ロ ッ パ ・ ア メ リ カ 世 界 の 成 立	1. ヨーロッパ経済の動向と産業革命	○	○	○	大航海時代以降の植民地の獲得により、ヨーロッパ諸国が重商主義で経済を発展させたことを理解している。 大西洋三角貿易を展開したイギリスが技術革新へと向かったことを理解している。 産業革命による工業化、交通革命・通信革命などの変化、軍事技術の発展などにより西ヨーロッパ中心の植民地支配が一層拡大したことを考察している。 産業革命による人々の生活の変化を追究しようとしている。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
		2. アメリカ独立革命とフランス革命	○	○	○	アメリカ独立革命、フランス革命の原因とその経過について理解している。 ナポレオン戦争によるヨーロッパにおける変化を理解している。 二つの革命がその後の世界に与えた影響を考察し、表現している。 二つの革命によって生み出された理念や考え方について追究使用としている。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
		3. 19 世紀前半のヨーロッパ	○	○	○	ウィーン会議の内容、ウィーン体制の特徴を理解している。 ウィーン体制と、自由主義・ナショナリズムの対立構造を理解している。 フランス第二帝政、イギリス自由貿易体制の成立を理解している。 資本主義に対抗する、社会主義発生の背景について考察している。 ウィーン体制が民衆の反発によって崩されていった点を見いだそうとしている。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表

					ドイツとイタリアの統一運動失敗の原因を見いだそうとしている	
	4. 19 世紀後半のヨーロッパ	○	○	○	クリミア戦争の概要を捉え、その経過や重要な点を理解している。 イギリスとフランスの国内状況を捉え、対外政策の概要を理解している。 イタリアとドイツの統一国家の形成について理解している。 ビスマルク外交の基本方針が、どのように外交政策に反映させたかを考察し、表現している。 19 世紀の文化・科学と社会の変容を、具体的な例を挙げて表現している。 イタリアやドイツの統一が、ヨーロッパの勢力図にどのように影響を与えているか検討しようとしている。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
	5. 19 世紀のアメリカ大陸	○	○	○	多くの人々が大西洋を渡ってアメリカに渡った理由と経過を理解している。 ラテンアメリカの国々が、スペイン・ポルトガルの植民地から独立した経緯を理解している。 独立後のアメリカ合衆国が、領土を西方へ拡大していった過程を理解する。 アメリカ南北戦争の原因と過程を理解している。 南北戦争後、法的平等権が与えられたのにも関わらず、黒人への差別が解消されなかった構造について考察する。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
	6. 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化	○	○	○	東方問題の概要を理解している。 イギリスのエジプト進出、インド植民地化の過程を理解している。 オスマン帝国の改革の内容、その結果を考察している。 ヨーロッパ列強による東南アジア植民地化の全体像を把握し、その過程について理解している。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
	7. 中国の開港と日本の開国	○	○	○	アヘン戦争・アロー戦争によって、欧米列強に中国が半植民地化されていく過程を理解している。	定期テスト グループ協議 レポート

						中国を混乱させた太平天国の乱、それに続く清朝の改革について考察している。 欧米諸国の通商要求に対する江戸幕府の対応を理解し、開国に至る経緯を理解している。 ペリー来航後、朝廷・諸大名の発言力が増し、江戸幕府の政治が動揺した変動の様相を理解している。 開国後、日本が欧米の知識・技術を受容したことを理解し、貿易の特徴を考察している。	授業中の発表
二 学 期 前 半	第 3 章 明 治 維 新 と 日 本 の 立 憲 体 制	1. 明治維新と諸改革	○	○	○	大政奉還のねらいをふまえ、明治政府の成立や戊辰戦争の展開を理解している。 五箇条の誓文に示された明治政府の方針を理解し、版籍奉還・廃藩置県の歴史的意義を理解している。 四民平等に向けた改革に内容を理解し、国民がどのように形成されたか考察している。 教育の近代化や西洋思想の流入をふまえ、文明開化の風潮と広まりを理解している。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
		2. 明治初期の対外関係	○	○	○	欧米諸国との外交関係に留意しながら、日本が欧米の新技术導入をどのように進めたかを理解している。 清中心の国際秩序を理解し、日本が清・朝鮮と結んだ外交関係を考察している。 琉球処分・北方開発に留意しつつ、日本が領土を画定していった過程を理解している。 日本人の海外渡航に注目し、海外への移民が増加していったことを理解している。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
		3. 自由民権運動と立憲体制	○	○	○	自由民権運動の背景、運動の高まり、担い手の広がりについて理解している。 松方財政の背景、内容を理解し、それが自由民権運動にどのような影響を与えたかを理解している。 大日本帝国憲法の成立過程をふまえ、憲	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表

					<p>法の内容を理解し、特徴を考察している。</p> <p>大日本帝国憲法のもとで、成立した制度や法典の内容、特徴を理解している。</p>	
第4章	1. 条約改正と日清戦争	○	○	○	<p>19世紀末の朝鮮国内の動きに対し、日本と清がどのように関与したか、朝鮮をめぐって両国が対立するに至った過程を理解している。</p> <p>条約改正が成功した国際的背景を理解し、その交渉経過、締結された条約内容を考察している。</p> <p>日清戦争の背景を理解し、戦争の推移・結果、戦争後の日本・清・朝鮮に対する影響について考察している。</p> <p>日清戦争後の国内政治について、政府と政党の動きに注目しながら、特徴を理解している。</p>	<p>定期テスト</p> <p>グループ協議</p> <p>レポート</p> <p>授業中の発表</p>
帝国主義の展開とアジア	2. 日本の産業革命と教育の普及	○	○	○	<p>日本の産業革命の展開、その中で政府が果たした役割について理解している。</p> <p>紡績業・製糸業の発展について理解し、その特徴を考察している。</p> <p>重工業発展の特徴を考察している。</p> <p>労働運動・社会運動の背景を理解し、それに対する政府の対応を考察している。</p> <p>学校令にもとづく学制の内容を理解し、特徴を考察している。</p>	<p>定期テスト</p> <p>グループ協議</p> <p>レポート</p> <p>授業中の発表</p>
	3. 帝国主義と列強の展開	○	○	○	<p>第2次産業革命の概要をおさえ、それがどのように世界を変化させていったかを理解している。</p> <p>帝国主義の状況、生まれた背景、世界への影響を理解している。</p> <p>パクス＝ブリタニカが終焉を迎え、アメリカやドイツに抜かれていった過程を考察している。</p> <p>後発国ドイツが急速に力を強め、イギリス・フランスを脅かすようになった過程を考察している。</p> <p>アメリカが工業力で世界一となり、帝国主義政策によって領土を拡大していった過程を考察している。</p>	<p>定期テスト</p> <p>グループ協議</p> <p>レポート</p> <p>授業中の発表</p>

					スエズ運河・パナマ運河が開通して、世界の一体化が急速に進展していった過程を考察している。	
	4. 世界分割と列強の対立	○	○	○	<p>アフリカ大陸が、ヨーロッパ列強によって急速に植民地化されていく過程を理解している。</p> <p>ヨーロッパ諸国の長期にわたる植民地支配が、その後のアフリカの発展に深刻な影響を与えたことを理解する。</p> <p>太平洋地域が、欧米列強によって分割されていく過程を考察している。</p> <p>独立達成後の阿…アメリカ諸国で誕生した独裁政権下で軍事クーデタが相次ぎ、民衆の利害が軽視される状況であったことを理解している。</p> <p>ドイツとイギリスの対立を軸に、国際的に複雑な同盟・協商関係が形成されていった過程を考察している。</p>	
	5. 日露戦争とその影響	○	○	○	<p>列強による中国分割、東アジア情勢の変化を整理し、日露戦争がおこった理由を理解している。</p> <p>日露戦争後の国際関係の変化に留意して、日本が韓国植民地化と満州支配を進めた経緯を考察している。</p> <p>清朝の終焉と中華民国の成立の意義を理解し、辛亥革命の流れについて考察している。</p> <p>インド・東南アジアの民族運動の概要を理解し、これらが独立運動へと発展していった経緯を考察している。</p>	
	近代化と現代的な諸課題 自由・制限／開発・保全		○	○	<p>自由・制限、開発・保全の観点から、資料を活用して、現代的な課題と結びつけて考察し、探究した結果を表現している。</p> <p>近代化と私たちの内容を振り返り、新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点をまとめることができる。</p>	
	国際秩序の変化や大衆化への問い		○	○	<p>国際関係の緊密化による戦争や貿易の変化に関する資料をもとに問いを立てて、考察している。</p>	

					アメリカとソ連の台頭に関する資料をもとに問いを立てて、考察している。 第一次世界大戦後、第二次世界大戦後の国際社会における植民地の独立に対する姿勢に関する資料をもとに問いを立てて、考察している。 19 世紀後半から 20 世紀前半に世界各地でおこった大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化に関する資料をもとに問いを立てて、考察している。 第一次世界大戦後に世界各地で進んだ生活様式の変化に関する資料をもとに問いを立てて、考察している。		
	第 5 章 第一次世界大戦と大衆社会	1. 第一次世界大戦とロシア革命	○	○	○	バルカン半島の複雑な状況を理解し、その影響と第一次世界大戦開戦について多面的・多角的に考察している。 総力戦による社会の変化を理解している。 日本参戦後、日中両国間での動きを考察している。 戦時外交とアメリカ参戦による戦争の経過、国際社会の変化を理解している。 ロシア革命の経過・思想を理解し、革命とソ連成立が国際社会に与えた影響について考察している。 ロシアの内戦、日本のシベリア出兵の意図を理解している。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
二学期後半	第 5 章 第一次世界大戦	2. 国際社会と安全保障	○	○	○	パリ講和会議・ヴェルサイユ条約の内容を整理し、国際連盟の限界を理解している。 ワシントン会議の内容を整理し、ワシントン体制で成立した国際秩序の特徴を理解している。 1920 年代のイギリス・フランス・ドイツ・イタリアの状況を理解し、各国の第一次世界大戦後の変化について考察している。 国際協調の中で結ばれた条約の内容を理	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表

と 大 衆 社 会					解し、国際協調の中で模索されたものは何かを考察している。	
	3. アジア・アフリカ地域の民族運動	○	○	○	<p>第一次世界大戦後に民族運動が活発になった要因を理解し、その影響について考察している。</p> <p>東アジアの民族運動を整理し、中国の国民党・共産党が果たした役割を考察している。</p> <p>インド・東南アジアの民族運動を整理し、各地域における指導者の役割を理解している。</p> <p>アフリカ・西アジアの民族運動を整理し、各民族の独立や国家建設の動きを理解している。</p>	<p>定期テスト</p> <p>グループ協議</p> <p>レポート</p> <p>授業中の発表</p>
	4. 大衆消費社会と市民社会の変容	○	○	○	<p>アメリカで大量消費社会が成立した要因をふまえ、大量消費社会の特徴を理解している。</p> <p>アメリカ社会の大衆化・保守化を理解し世界に及ぼした影響を考察している。</p> <p>日本の新興中間層と都市化を理解し、人々の生活の変化について考察している。</p> <p>日本の大衆文化・消費文化を整理し、人々の生活に及ぼした影響を理解している。</p>	<p>定期テスト</p> <p>グループ協議</p> <p>レポート</p> <p>授業中の発表</p>
	5. 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加	○	○	○	<p>大正政変の背景を整理し、その後の政治の推移を理解している。</p> <p>大戦景気の背景を整理し、その特徴を理解している。</p> <p>米騒動が発生した背景・理由をふまえ、民衆のエネルギーが政治にどのように反映されたかを考察している。</p> <p>大正デモクラシー下の普通選挙運動、労働・女性・部落解放運動などの社会運動の展開について、背景と関連づけながら考察している。</p>	<p>定期テスト</p> <p>グループ協議</p> <p>レポート</p> <p>授業中の発表</p>
第 6 章	1. 世界恐慌の発生と各国の対応	○	○	○	<p>恐慌が世界に波及した要因を追究し、その後の世界に与えた影響を理解している。</p> <p>各国が金本位制を離脱したことの意味を</p>	<p>定期テスト</p> <p>グループ協議</p> <p>レポート</p> <p>授業中の発表</p>

経済危機と第二次世界大戦					<p>理解し、ブロック経済形成の目的と影響について考察している。</p> <p>ニューディール政策の内容・結果を理解し、アメリカの外交政策の変化を考察している。</p> <p>ソ連の国際社会復帰と社会主義建設に転換した経緯を理解し、世界に及ぼした影響を考察している。</p>	
	2. ファシズムの台頭	○	○	○	<p>ファシズム体制の特徴をまとめ、国内外の影響を理解している。</p> <p>ヒトラーとナチ党がドイツ政権を獲得し、独裁体制を確立した経緯と結果について考察している。</p> <p>1930年代のヨーロッパにおけるファシズムと反ファシズムの共通点・相違点について考察している。</p> <p>ドイツの拡張主義的な対外政策と他国の反応から、第二次世界大戦発生の要因を理解している。</p>	<p>定期テスト</p> <p>グループ協議</p> <p>レポート</p> <p>授業中の発表</p>
	3. 日本の恐慌と満州事変	○	○	○	<p>金融恐慌の背景を考察し、特徴について理解している。</p> <p>協調外交をすすめた背景を理解し、その後の政治の推移を考察している。</p> <p>満州事変の背景を理解し、その後の政治の推移を考察している。</p> <p>五・一五事件の背景・理由をふまえ、その後の軍人の行動が、政治に与えた影響を考察している。</p> <p>恐慌からどのように回復していったか、その対処法を考察している</p>	<p>定期テスト</p> <p>グループ協議</p> <p>レポート</p> <p>授業中の発表</p>
	4. 日中戦争と国内外の動き	○	○	○	<p>二・二六事件の背景を考察し、その後の政治・軍部の動きの推移について理解している。</p> <p>日中戦争の背景を理解し、その後の国際社会に与えた影響を考察している。</p> <p>日本が中国に侵攻して、軍の行動を理解し、中国の人々はどのような影響を受けたかについて考察する。</p> <p>三国同盟がどのように締結されたか理解</p>	<p>定期テスト</p> <p>グループ協議</p> <p>レポート</p> <p>授業中の発表</p>

					している。それが国民生活にどのような変化・影響があったか、新体制運動下で背景と関連づけて考察する。		
		5. 第二次世界大戦と太平洋戦争	○	○	○	第二次世界大戦の背景を理解し、その後の政治の推移を考察する。 日本とアメリカの対立が生じた背景を、日米関係を基軸に考察している。 ドイツ・イタリアのヨーロッパでの動き、その背景・理由を考察している。 日本国内における戦時下での国民生活、中国・朝鮮から動員された人々の生活について考察している。 第二次世界大戦は、戦後の世界にどのような影響を与えたか考察している。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
三 学 期	第 7 章 戦 後 の 国 際 秩 序 と 日 本 の 改 革	1. 新たな国際秩序と冷戦の始まり	○	○	○	第二次世界大戦後の国際社会が、どのようにして新しい国際秩序を構築したかを考察している。 アメリカとソ連の対立の背景を理解し、ヨーロッパが受けた影響を考察している。 ドイツの戦後の占領分割について、連合国側とソ連のそれぞれの方法を考察する。 冷戦について、資本主義陣営と社会主義陣営に分かれた経緯を理解し、米ソが二大国となったことを理解している。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
		2. アジア諸地域の独立	○	○	○	中華人民共和国の成立について理解する。 朝鮮戦争についての背景・過程を理解し、東アジアに与えた影響を考察している。 東アジア・南アジアの独立について、各国別に理解し、考察している。 イランの民族運動の挫折について、国王と国際石油資本との関係深化による影響を考察している。 イスラエル成立に伴う、パレスチナ地域の動向について考察している。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
		3. 占領下の日本と民主化	○	○	○	連合国による日本占領の方法・特徴を理解している。	定期テスト グループ協議

					連合国による日本の民主化政策について理解し、その特徴について考察している。 日本国憲法の制定過程を理解し、特徴について考察している。 戦後復興が難航した背景を理解し、政府がどのような政策を講じたか考察している。	レポート 授業中の発表
	4. 占領政策の転換と日本の独立	○	○	○	中道政権が成立した背景を理解し、それがなぜ継続しなかったのかを考察している。 連合国による占領政策の転換について整理し、日本の政治・形座に与えた影響を考察している。 講和をめぐる国内の動き、サンフランシスコ講和会議の経過・平和条約の内容を理解し、日本がどのように国際社会に復帰したのかを考察している。 日米安全保障条約の内容を理解し、冷戦下で日本がどのような目的でアメリカとの安全保障条約を締結したのかを考察している。 占領期の世相・文化について理解し、それらが国民にとってどのような意味をもったかについて考察している。	定期テスト グループ協議 レポート 授業中の発表
	国際秩序の変化や大衆化と現代的な課題 対立・協調／平等・格差／統合・分化		○	○	対立・協調、平等・格差、統合・分化の観点から資料を活用して、現代的な課題と関連を考察し、探究した結果を表現している。 国際秩序の変化や大衆化と私たちが表現した問いをもとに、新たに加わった視点や理解できたことについてまとめる。	

		グローバル化への問い		○	○	<p>冷戦下の国際関係、各国の取り組みに関する資料をもとに問いを立てて考察している。</p> <p>グローバル化の中で、人口・資本の移動が国際社会に与えた影響に関する資料をもとに問いを立てて、考察している。</p> <p>高度情報通信の構築に関する資料をもとに問いを立てて考察している。</p> <p>世界の食料と人口の問題に関する資料をもとに問いを立てて、考察している。</p> <p>グローバル化における資源・エネルギーと地球環境をめぐる問題に関する資料をもとに問いを立てて、考察している。</p> <p>グローバル化と感染症の問題に関する資料をもとに問いを立てて、考察をしている。</p> <p>アメリカと多様な人々の共存のあり方に関する資料をもとに問いを立てて、考察をしている。</p>	
--	--	------------	--	---	---	---	--

2025 年度 相愛高等学校 音楽科 シラバス

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2	選択等	必修
教科書	『古典探究』（大修館書店）						
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』（啓隆社）、『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店） 『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社）、『古文単語 300』（旺文社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房） 〈以上高校 1 年より継続して利用〉						

1 学習の到達目標

古文や漢文を主体的に読み深めることを通して、日本の伝統的な言語文化への理解や関心を深めることを目的とする。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

古典を「読むこと」を軸に、単に現代語訳に改めることをゴールにするのではなく、古典の解釈をするために積極的に文化理解を深め、時にクリティカルな読みを含め、積極的な学習態度を涵養したい。話の構成や展開に工夫があることに気づき、自らの言語活動の質をも向上させてほしいと思っています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しみ、言語の特徴や決まりなどについて理解する。本文の目的や場面、意図に応じ、論理の展開に目を見張り、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ、相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、文化などについて自分の考えを持っている。	国語で理解する能力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	説話・物語	『大和物語』 「をばすて」 『大鏡』「三船の才」	◎	○	○	古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 作品の成立時代や背景を理解し、文章に描れている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。 連歌についての理解を求める。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
1 学 期 期 末	俳論・日記	『去来抄』 「行く春を」 『蜻蛉日記』 「町の小路の女」	○	◎	○	物事の様子や場面などを、読み手が言葉をしてありありと想像できるよう描いている。 書くことに必要な、文の組み立てについて理解している。 贈答歌についての理解を求める。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学 期 中 間	漢文・随筆	『史記』 「荊軻」 『枕草子』 「二月つごもりごろに」	○	◎	○	文章に描かれている情景を、文や文章、語などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学 期 期 末	日記 文学・物語	『和泉式部日記』 「薫る香に」 『源氏物語』 「御法」	◎	○	○	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築かれてきたに気付いている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などが果たしている効果に気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

3 学 期	演 習	『曽根崎心中』 「道行」	○	◎	○	<p>大阪の文化がはぐくんだ古典に触れる。現代文分野に近づいた理解をする必要もあり、和歌、物語、随想を下地にした言い回しに気をつけながらも、作中人物の心情などを理解する。</p> <p>和文脈と漢籍がつながるような部分においては、深い理解を求め、文章の形態や文体の違いによる特色について、理解する。</p> <p>古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
-------------	--------	-----------------	---	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	選択等	必須
教科書	「論理国語」 (大修館書店)						
副教材等							

1 学習の到達目標

様々なテーマの表論文、随筆を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

また、国語を適切に表現でき、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばしていく。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

様々なテーマの文章を通して、自らの物事に対する捉え方の幅を広げ、思考を深められるようにしましょう。また学習から得られた知識や知見を自身の読解力に活かすと同時に、コミュニケーション能力にも活かすことができるようにしましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	論理の展開を工夫して説得力のある文章を書くことができ、言葉の決まりや適切な言葉遣い、漢字などについて理解し使ったりするとともに、現代思想に関心を持ち、効果的に自己の考えを表現する。	他者の考えや意見を傾聴し、目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。	国語で伝え表現する力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、他者の意見との差異を認め、言語活動を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		・「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ ・記号的メディアと物理的メディア	○	○ ○	○	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握している。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への 応答 ・疑問の発 露
1 学期 期末		・ポスト真実時代のジャーナリズムの役割 ・人を指す言葉——自称詞・対称詞・他称詞	○	○ ○	○	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への 応答 ・疑問の発 露
2 学期 中間		・政治を支える心構え ・「である」ことと「する」こと	○ ○	○ ○	○	言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	・学習状況 ・発問への 応答 ・疑問の発 露
2 学期 期末		・日常に走る亀裂 ・言語と他者	○ ○	○ ○	○ ○	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	・学習状況 ・発問への 応答 ・疑問の発 露
3		・日本文化の三つの時間	○	○ ○	○	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確	・学習状況 ・発問への

学 期						<p>にしながら要旨を把握している。</p> <p>自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。</p>	<p>応答</p> <p>・疑問の発露</p>
--------	--	--	--	--	--	---	-------------------------

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』（本願寺出版社）						
副教材等	『日々の糧』 『聖典聖歌』						

1 学習の到達目標

宗教に関して単に知識をつめこむのではなく、自ら学び、自ら考える力を育む。自分自身をしっかりと見つめ直し、より充実した生き方を追及できるように学習する。また、学校生活における生徒間のかかわりの中から、感謝の気持ちと、思いやりの心を身につけ、心豊かな宗教的情操を育むことを目標とする。

3 学年の宗教では、浄土真宗を開かれた宗祖親鸞聖人の生涯を学び、また念仏の教えを通じて、人生に対する考え方の中で「生きる意味とその方向性」を見つめ直す。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

お釈迦様も、親鸞聖人も生身でこの世を生きた人間である。人間の苦をどのように受け止められ、人の世を観ておられたのか。生きる拠り所は何だったのか。その生涯を学びながら、私たちも、今一度自らと丁寧に向き合ってみよう。また、『日々の糧』からの気づき、「黙想」の習慣は、身口意を整える。習慣がその人を作る。しっかりと取り組んでいこう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	親鸞聖人の教えを正しく理解し、教えがどのように伝わっていくのか、その背景を正しく理解できているか。また、知識として理解を深めるだけでなく、理解を深めて人間性を養うことに繋がっているか。	親鸞聖人の生涯の学びにおいて、実社会や実生活と自己とのかかわりから、問を見出し、自分で課題をたてて情報を集め、整理、分析してまとめ、表現しているか。また、日々の糧を通じて自分の問題として受け止め、発信することができているか。	親鸞聖人の生涯を通じて自分自身の生き方と社会の在り方を考え直し、主体的に学ぶ姿勢がみられるか。
評 価 方 法	定期考査	パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 年間指導計画

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第一節 真実を求めています	オリエンテーション	○			I：平安時代・鎌倉時代における仏教の在り方を学び、その時代に起こった宗派についての知識を深めているか。 II：親鸞聖人に影響を与えた仏教の諸派についても学ぶ。また、日々の糧の内容について自分の問題としてとらえて表現できる。 III：仏教の祖師たちの教えを学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。	学期末に行う年4回の試験。 授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
		第3節 仏教の日本伝来 3 平安時代の仏教 4 鎌倉時代の仏教 まとめ 中間考査 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○	○		
1 学期 期末	第一節 真実を求めています	第4章 親鸞聖人の生涯（教えと人生） 1 誕生 2 親鸞聖人の出家 3 比叡山の修行 4 横川の不断念佛 まとめ 期末考査 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○	○	I：親鸞聖人がどのような経緯で出家に到ったのか、また、比叡山においてどのような生活を送っていたのかを理解している。 II：親鸞聖人が行った修行において、どのような気づきがあったのかを理解する。 III：親鸞聖人の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。	
2 学期 中間	第二節 念仏の道を歩む	5 六角堂の参籠 6 吉水入室 7 法然聖人の教え 第2節 法難と伝道 1 念仏弾圧 2 非僧非俗 3 愚禿の内省 4 結婚 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○	○	I：親鸞聖人が流罪となってどのような生活の中から自分自身見つめていったのか理解している。 II：親鸞聖人が関東に伝道するに至った経緯についてまとめ、があったのか理解している。 III：親鸞聖人の生き方について学び、それを自分の問題として受け止め、積極的に取り組むことができる。	

2 学 期 末	第二節 念仏の道を歩む	5 関東への移住	○	○		I：親鸞聖人の晩年の伝道生活にふれ、 どのように念仏の教えがひろがった のかを理解する。 II：本願寺の発展について、資料をまと め、発表する。 III：親鸞聖人の生涯から生き方について 学び、それを自分の問題として受け止 め、積極的に取り組むことができる。	
		6 生きた伝道	○	○			
3 学 期	第三節 真実の教え	第3節 帰洛と晩年					
		1 親鸞聖人の帰洛	○	○			
		2 晩年の生活	○	○			
		3 親鸞聖人の往生	○	○			
		4 廟堂の建立	○	○			
		5 見真大師	○	○			
		6 報恩講	○	○			
		まとめ	○	○	○		
		※「日々の糧」・「聖典」のこと ば・時事問題を交えながら学 習する。		○	○		
		第5章 念仏の教え	○	○			
		第1節 阿弥陀仏の本願	○	○			
		第2節 他力回向	○	○			
		第3節 信心と称名	○	○			
		まとめ	○	○	○		
		学年末考查※「日々の糧」・ 「聖典」のことば・時事問題を 交えながら学習する。		○	○		
						I：親鸞聖人のみ教えから、浄土真宗の 教えについて正しく理解している。 II：浄土真宗と他宗との違いを理解し、 その違いを明確に説明できる。 III：親鸞聖人の念仏の教えから生き方に ついて学び、それを自分に向けられた 願いと受け止め、積極的に取り組むこ とができる。	

2025 年度 相愛高等学校 3 年 音楽科 シラバス

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	選択等	必修
教科書	大修館 704 文学国語						
副教材等	「常用国語便覧」(浜島書店)						

1 学習の到達目標

近代以降の随想や小説、様々な文章を読み解くことで、より豊かな感性を磨き上げたい。また、大学入試に向けて自らの考えをまとめる力を培っていききたい。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

小説は、登場人物の心情の変化を中心とした読解を行い、それに関連する登場人物の言動や出来事、情景などの推移を確認していく。内容把握に必要な接続詞、指示語、具体抽象、対比、言い換えなどを反復的に学びつつ、本文の主題、筆者の主張を読み解き理解していく。また記述問題や要約、小論文を書くことなどにも積極的に挑戦していく。

近代以降の様々な文章を表現に即して的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、言語や日本の文化に対する関心を深め、社会人として生活していく上で必要な資質を養いましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能(技術)	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	現代における重要な語や概念、あるいは漢字や修辞法などについて理解し使ったりするとともに、近現代の文学をその文学史的、そして歴史的な観点から正確に読解する。	指示語や接続詞、対比などを理解し読解に用いることで論理的な思考力を養い、自己の意見を表現するとともに、他者の主張を傾聴する力を涵養する。	国語を適切に使用して他者と積極的にコミュニケーションを取ることで、国語に対する見識を深め、協調性や協働性を養う。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	表現・寓話	随想 桜の中で、時が重なり合う 小説 赤い繭	○ ○	 ○	 ○	I：語彙を増やし、表現技法を理解している。 II：筆者の考えや行動を読みとり、情景をイメージしている。 III：筆者の主張について自分の考えを文章にまとめている。	・観察、自己評価、相互評価 ・ノート ・発言、発表
1 学期 期末	近代小説	小説 檸檬	 ○	 ○	 ○	I：語句の意味や表現技法を理解し、主人公の行動を把握している。 II：時間の経過や場面で変化する主人公の状況や言動、心境を把握している。 III：主人公の考えや行動に対する自分の意見を持ち、作品を主体的に鑑賞している。	・観察、自己評価、相互評価 ・ノート ・発言、発表
2 学期 中間	近代小説	小説 伊豆の踊り子	 ○	 ○	 ○	I：作者や文学史の知識を持っている。 II：時代背景を踏まえて、登場人物の言動や心境を理解している。 III：それぞれの登場人物の立場になって心境を想像し、作品を鑑賞している。	・観察、自己評価、相互評価 ・ノート ・発言、発表
2 学期 期末	近代小説	小説 舞姫	 ○	 ○	 ○	I：なじみのない漢語や表現を、注釈や辞書を手がかりにして理解している。 II：当時の国家や個人など登場人物の立場や考えを理解している。 III：文語体の作品に興味をもって取り組み、文章のリズムや響きを味わいながら鑑賞し、自分の感想をまとめている。	・観察、自己評価、相互評価 ・ノート ・発言、発表
3 学期	随想・評論	随想 陰翳礼讃	 ○	 ○	 ○	I：日本人の伝統的な美意識や東洋と西洋の美的感覚の違いについて述べた筆者の考察を理解している。 II：筆者の文章に興味を持ち、現代の文化との違いを把握している。 III：筆者の主張について理解し、自分の考えを文章にまとめている。	・観察、自己評価、相互評価 ・ノート ・発言、発表

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	教養	科目	マナー	単位数	1	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	プリント（授業時に配布）、プリント用ファイル						

1 学習の到達目標

“マナー”の根底にある“他人を大切にする優しさや思いやりの気持ち”を醸成し、社会人基礎力を身に付けることを目標とします。適切な言葉遣いや立ち居振る舞いなどのマナーの知識を伝えると共に、知識を日常生活の中で実際に体現できるように導きます。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

マナーとは、「思いやりの心」を行動で表し、相手に伝えることです。マナー（思いやり）は社会生活や人間関係を円滑なものにするための周囲への心遣いであり、また、潤滑油として大きな役割を果たしています。授業で学習したマナーを日常生活の中で実践し、自信に繋げ、豊かな人生を送って頂きたいと思います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	形だけではなく、何故そうするのかを理解した上で実行できる。	その時々状況や場面に応じて、臨機応変に学んだことを表現出来る。	マナーの意義を理解し、知識を実践に繋げようとしている。
評 価 方 法	学習の理解度 復習筆記テスト 課題内容	課題提出 学習状況 発問への反応・発言	学習状況 発問への反応・発言 課題への取り組み・態度
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	マナー	1.マナーとは何か （必要性・効果・公共の場や校内でのマナーなど） 2.“第一印象”の重要性 （好印象を与えるポイント） 3.あいさつ 4.コミュニケーション「聞く力・伝える力」 5.敬語・適切な言葉遣い （敬語の基本、間違った言葉遣い、接遇用語など）	○	○	○	a:マナーの必要性や意味を理解する。 公共の場や校内でのマナーはどのようなものがあるのかを学び、日常生活の中で実践できる。 b:相手に与える印象が人間関係や自分の未来を左右することを理解し、好印象を与えるポイント（身だしなみ・表情・立ち居振る舞いなど）を実践できる。 c:挨拶の意味やなぜ大切なのかを理解する。より良いコミュニケーションを築いていくためにはどのような挨拶・返事をしたらいいのかを考え、実践できる。 d:聞く（聴く）こと・話す（伝える）ことの大切さを学び、実践できる。 e:敬語の基本を正しく理解し、適切な言葉遣いを身に付ける。 ビジネスの場では特有の言い回しがあることを理解し、その場の状況や相手に合わせて、適切に使い分けることができる。	学習態度 課題提出 発問の反応 理解度
1 学期		筆記テスト	○	○		a:1 学期に学んだマナーや敬語・言葉遣いを正しく理解し、状況に応じた判断や対応ができる。	筆記テスト

2 学 期	マ ナ ー	<p>6 電話応対 (電話の特性・取次ぎ方・伝言の受け方・復唱の仕方・携帯電話のマナー)</p> <p>7 訪問のマナー</p> <p>8 面接のマナー</p>	○	○	○	<p>a:電話の特性や電話対応のポイントを理解する。 電話の受け方・掛け方を実践で学び、電話対応の基本を身に付ける。</p> <p>a:企業や個人宅を訪問する際のマナーを学び、実践で身に付ける。</p> <p>a:面接のマナーを理解し、入退室の流れ・ドアの開閉方法・お辞儀と挨拶のタイミング・座り方・立ち方などを身につける。</p> <p>b:質問に対しての基本的な受け答えができる。</p>	<p>学習態度 課題提出 発問の反応 理解度</p>
2 学 期		筆記テスト	○	○		<p>a:2 学期に学んだマナーを正しく理解し、状況に応じた判断や対応ができる。</p>	筆記テスト
3 学 期		<p>10.接客/接遇 (受付対応・ご案内・席次・お茶出し・お見送りなど)</p> <p>11.社会人としての ルール</p>	○	○	○	<p>a:来客対応や接遇マナーなどを実践で学び、理解を深める。</p> <p>b:学生と社会人の違いを理解し、社会での基本的なルールを理解する。</p>	<p>学習態度 課題提出 発問の反応 理解度</p>
3 学 期		筆記テスト	○	○		<p>a:3 学期に学んだマナーを正しく理解し、状況に応じた判断や対応ができる。</p>	筆記テスト

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 特進コース シラバス

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	3	選択等	必修
教科書	『詳述政治・経済』（実教出版）						
副教材等	『新政治・経済ノート』（啓隆社）、『政治・経済 資料 2025』（とうほう）、授業プリント						

1 学習の到達目標

1. 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能）
2. 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。（思考・判断・表現）
3. よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

公共で学習した基本的な知識をもとに、現代社会の諸課題についてより深く考える授業です。基本的な用語の暗記にとどまらず、理解、考察まで学びを深めるように心がけましょう。新聞やニュース等に触れる習慣をつけておきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身につけているか。	現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる諸問題を考察し、それらの本質や特質、さらには望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的、多角的に考察しているか、また社会の変化やさまざまな立場、考え方があることを理解した上で公正に判断しているか、課題についての考察や判断の過程や	現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心を持ち、意欲的に探求しようとしているか、また社会事象を総合的に理解し考察しようとする態度を身につけているか、さらに国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進をはかるために参加、協力する態度を身につけているか。

		結果をさまざまな方法を駆使して適切に表現しているか。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・提出物等 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期前半	第 1 部 第 1 編 現代日本の政治	民主政治の基本原則	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・政治と法の意義と機能，基本的人権の保障と法の支配，権利と義務との関係，議会制民主主義について，現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の政治に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・政党政治などの観点から，望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して，民主政治の基本原則における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために，民主政治の基本原則とその課題について多面的・多角的に考察，構想したことを社会生活に生かそうとしている。 	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

		日本国憲法の基本的性格	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的人権の保障と法の支配，権利と義務との関係，議会制民主主義，地方自治について，現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・ 現代日本の政治に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・ 民主政治の本質を基に，日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し，表現している。 ・ 現実社会の諸課題について主体的に追究して，日本国憲法の基本的性格における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・ よりよい社会の実現のために，日本国憲法の基本的性格とその課題について多面的・多角的に考察，構想したことを社会生活に生かそうとしている。
		日本の政治機構	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的人権の保障と法の支配，権利と義務との関係，議会制民主主義，地方自治について，現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・ 現代日本の政治に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・ 政党政治や選挙などの観点から，望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 ・ 現実社会の諸課題について主体的に追究して，日本の政治機構における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・ よりよい社会の実現のために，日本の政治機構とその課題について多面的・多角的に考察，構想したことを社会生活に生かそうとしている。

1 学期後半	第1部第1編現代日本の政治	現代日本の政治	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・権利と義務との関係, 議会制民主主義, 地方自治について, 現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の政治に関する諸資料から, 課題の解決に向けて考察, 構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取る技能を身に付けている。 ・政党政治や選挙などの観点から, 望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察, 構想し, 表現している。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して, 現代日本の政治における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために, 現代日本の政治とその課題について多面的・多角的に考察, 構想したことを社会生活に生かそうとしている。 	定期考查 提出課題 発問評価 授業態度
	第2編現代日本の経済	経済社会の変容	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動について, 現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の経済に関する諸資料から, 課題の解決に向けて考察, 構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取る技能を身に付けている。 ・経済活動について多面的・多角的に考察し, 表現させる。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して, 経済社会の変容における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために, 経済社会の変容とその課題について多面的・多角的に考察, 構想したことを社会生活に生かそうとしている。 	

2	学 期 前 半	第 1 部 第 2 編	現 代 日 本 の 経 済	現代経済のしくみ	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と市場，経済主体と経済循環，国民経済の大きさと経済成長，物価と景気変動，財政の働きと仕組み及び租税などの意義，金融の働きと仕組みについて，現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の経済に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・市場経済の機能と限界，持続可能な財政及び租税の在り方，金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して，現代経済のしくみにおける学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために，現代経済のしくみとその課題について多面的・多角的に考察，構想したことを社会生活に生かそうとしている。 	定期 考査 提出 課題 発問 評価 授業 態度
				現代経済と福祉の向上	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と市場，経済主体と経済循環，国民経済の大きさと経済成長，物価と景気変動，財政の働きと仕組み及び租税などの意義，金融の働きと仕組みについて，現実社会の諸事象を通して理解を深めること。 ・現代日本の経済に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し，表現している。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して，現代経済と福祉の向上における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 	

						・よりよい社会の実現のために、現代経済と福祉の向上とその課題について多面的・多角的に考察，構想したことを社会生活に生かそうとしている。	
2 学 期 後 半	第 1 部 第 3 編 現 代 日 本 に お け る 諸 課 題 の 探 求	現代日本における 政治・経済の諸課題	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本における政治・経済の諸課題について，必要な知識を習得している。 ・現代日本における政治・経済の諸課題について，必要な情報を収集し，読み取り，まとめることができる。 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化，地域社会の自立と政府，多様な働き方・生き方を可能にする社会，産業構造の変化と起業，歳入・歳出両面での財政健全化，食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現，防災と安全・安心な社会の実現などについて，取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察，構想し，よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明，論述している。 ・現代日本における政治・経済の諸課題について，よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
	第 2 部 第 2 章 現 代 の 国 際 経 済	現代の国際政治	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の変遷，人権，国家主権，領土（領海，領空を含む。）などに関する国際法の意義，国際連合をはじめとする国際機構の役割，我が国の安全保障と防衛，国際貢献について，現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代の国際政治・経済に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に，国際法の果たす役割について多面 	

		現代の国際経済	○	○	○	<p>的・多角的に考察し、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際政治における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために、現代の国際政治とその課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代の国際経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際経済における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために、現代の国際経済とその課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。 	
	第2部第	国際社会の諸課題の探究	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化する国際社会の諸課題について、必要な知識を習得している。 ・グローバル化する国際社会の諸課題について、必要な情報を収集し、読み取り、 	

3 学 期	3 章 国 際 社 会 の 諸 課 題 の 探 究				<p>まとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容，地球環境と資源・エネルギー問題，国際経済格差の是正と国際協力，イノベーションと成長市場，人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組，持続可能な国際社会づくりなどについて，取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察，構想し，よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明，論述している。 ・グローバル化する国際社会の諸課題について，よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
-------------	---	--	--	--	--	------------------------------

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	3	選択等	必修
教科書	『詳述政治・経済』（実教出版）						
副教材等	4 ステージ演習ノート（数研出版）						

1 学習の到達目標

1. 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能）
2. 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。（思考・判断・表現）
3. よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

公共で学習した基本的な知識をもとに、現代社会の諸課題についてより深く考える授業です。基本的な用語の暗記にとどまらず、理解、考察まで学びを深めるように心がけましょう。新聞やニュース等に触れる習慣をつけておきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身につけているか。	現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる諸問題を考察し、それらの本質や特質、さらには望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的、多角的に考察しているか、また社会の変化やさまざまな立場、考え方があることを理解した上で公正に判断しているか、課題についての考察や判断の過程や	現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心を持ち、意欲的に探求しようとしているか、また社会事象を総合的に理解し考察しようとする態度を身につけているか、さらに国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進をはかるために参加、協力する態度を身につけているか。

		結果をさまざまな方法を駆使して適切に表現しているか。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 ・提出物等 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期前半	第 1 部 第 1 編 現代日本の政治	民主政治の基本原則	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・政治と法の意義と機能，基本的人権の保障と法の支配，権利と義務との関係，議会制民主主義について，現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の政治に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・政党政治などの観点から，望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して，民主政治の基本原則における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために，民主政治の基本原則とその課題について多面的・多角的に考察，構想したことを社会生活に生かそうとしている。 	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

		日本国憲法の基本的性格	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的人権の保障と法の支配，権利と義務との関係，議会制民主主義，地方自治について，現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・ 現代日本の政治に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・ 民主政治の本質を基に，日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し，表現している。 ・ 現実社会の諸課題について主体的に追究して，日本国憲法の基本的性格における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・ よりよい社会の実現のために，日本国憲法の基本的性格とその課題について多面的・多角的に考察，構想したことを社会生活に生かそうとしている。
		日本の政治機構	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的人権の保障と法の支配，権利と義務との関係，議会制民主主義，地方自治について，現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・ 現代日本の政治に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・ 政党政治や選挙などの観点から，望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 ・ 現実社会の諸課題について主体的に追究して，日本の政治機構における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・ よりよい社会の実現のために，日本の政治機構とその課題について多面的・多角的に考察，構想したことを社会生活に生かそうとしている。

1 学期後半	第1部第1編現代日本の政治	現代日本の政治	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・権利と義務との関係, 議会制民主主義, 地方自治について, 現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の政治に関する諸資料から, 課題の解決に向けて考察, 構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取る技能を身に付けている。 ・政党政治や選挙などの観点から, 望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察, 構想し, 表現している。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して, 現代日本の政治における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために, 現代日本の政治とその課題について多面的・多角的に考察, 構想したことを社会生活に生かそうとしている。 	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
	第2編現代日本の経済	経済社会の変容	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動について, 現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の経済に関する諸資料から, 課題の解決に向けて考察, 構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取る技能を身に付けている。 ・経済活動について多面的・多角的に考察し, 表現させる。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して, 経済社会の変容における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために, 経済社会の変容とその課題について多面的・多角的に考察, 構想したことを社会生活に生かそうとしている。 	

2	学 期 前 半	第 1 部 第 2 編 現 代 日 本 の 経 済	現代経済のしくみ	○	○	○	<ul style="list-style-type: none">・経済活動と市場, 経済主体と経済循環, 国民経済の大きさと経済成長, 物価と景気変動, 財政の働きと仕組み及び租税などの意義, 金融の働きと仕組みについて, 現実社会の諸事象を通して理解を深めている。・現代日本の経済に関する諸資料から, 課題の解決に向けて考察, 構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取る技能を身に付けている。・市場経済の機能と限界, 持続可能な財政及び租税の在り方, 金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察, 構想し, 表現している。・現実社会の諸課題について主体的に追究して, 現代経済のしくみにおける学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。・よりよい社会の実現のために, 現代経済のしくみとその課題について多面的・多角的に考察, 構想したことを社会生活に生かそうとしている。	定期 考査 提出 課題 発問 評価 授業 態度
			現代経済と福祉の向上	○	○	○	<ul style="list-style-type: none">・経済活動と市場, 経済主体と経済循環, 国民経済の大きさと経済成長, 物価と景気変動, 財政の働きと仕組み及び租税などの意義, 金融の働きと仕組みについて, 現実社会の諸事象を通して理解を深めること。・現代日本の経済に関する諸資料から, 課題の解決に向けて考察, 構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取る技能を身に付けている。・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し, 表現している。・現実社会の諸課題について主体的に追究して, 現代経済と福祉の向上における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	

						・よりよい社会の実現のために、現代経済と福祉の向上とその課題について多面的・多角的に考察，構想したことを社会生活に生かそうとしている。	
2 学 期 後 半	第 1 部 第 3 編 現 代 日 本 に お け る 諸 課 題 の 探 求	現代日本における 政治・経済の諸課題	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本における政治・経済の諸課題について，必要な知識を習得している。 ・現代日本における政治・経済の諸課題について，必要な情報を収集し，読み取り，まとめることができる。 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化，地域社会の自立と政府，多様な働き方・生き方を可能にする社会，産業構造の変化と起業，歳入・歳出両面での財政健全化，食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現，防災と安全・安心な社会の実現などについて，取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察，構想し，よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明，論述している。 ・現代日本における政治・経済の諸課題について，よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
	第 2 部 第 2 章 現 代 の 国 際 経 済	現代の国際政治	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の変遷，人権，国家主権，領土（領海，領空を含む。）などに関する国際法の意義，国際連合をはじめとする国際機構の役割，我が国の安全保障と防衛，国際貢献について，現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代の国際政治・経済に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に，国際法の果たす役割について多面 	

		現代の国際経済	○	○	○	<p>的・多角的に考察し、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際政治における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために、現代の国際政治とその課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代の国際経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・現実社会の諸課題について主体的に追究して、現代の国際経済における学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 ・よりよい社会の実現のために、現代の国際経済とその課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。 	
	第2部第	国際社会の諸課題の探究	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化する国際社会の諸課題について、必要な知識を習得している。 ・グローバル化する国際社会の諸課題について、必要な情報を収集し、読み取り、 	

3 学 期	3 章 国 際 社 会 の 諸 課 題 の 探 究				<p>まとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容，地球環境と資源・エネルギー問題，国際経済格差の是正と国際協力，イノベーションと成長市場，人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組，持続可能な国際社会づくりなどについて，取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察，構想し，よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明，論述している。 ・グローバル化する国際社会の諸課題について，よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
-------------	---	--	--	--	--	------------------------------

2025 年度 相愛高等学校 3 年 普通科 特進コース シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3	選択等	文系選択
教科書	詳説日本史（山川出版社）						
副教材等	史料による日本史（山川出版社） 新詳日本史（浜島書店）						

1 学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる人としての自覚と資質を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史は暗記科目ではありません。理解しようという姿勢で授業にのぞめば、日本史がどんどん好きになって自然に知識は定着します。毎週一回の復習テストに合格することで全国模試の成績も上がり、難関大学に挑戦できるようになります。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評 価 方 法	定期考査 宿題テスト・小テスト 提出物 授業態度	定期考査 授業中の発問に対する回答 授業態度 提出物	定期考査 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第11章	近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政の発足	○	○	○	<p>欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政权の成立について理解している。</p> <p>日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。</p> <p>日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。</p>	定期考査 宿題テスト・小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
1 学期 期末	第12章	近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	○	○	○	<p>明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。</p> <p>諸制度の改革が地域社会にもたらした</p>	定期考査 宿題テスト・小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物

					変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。		
2 学 期 中 間	第 13 章	近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	○	○	○	日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。議会在戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面	定期考査 宿題テスト・小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物

					的・多角的に考察し、表現している。 対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	
2 学 期 期 末	第 14 章	近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発展 3 市民社会の変容と 大衆文化	○	○	○ 産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究、欧米の科学技術の導入、教育の普及・拡充について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を理解している。 地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。都市の発達、鉄道・駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。 産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見出し、自ら主体的	定期考査 宿題テスト・小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物

						に追究しようとしている。明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することを通じて、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。	
3 学 期	第 15 章	恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	○	○	○	<p>国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。</p> <p>ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察したりして、課題を主体的に追究しよう</p>	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発 問に対する 姿勢 授業態度 提出物

					<p>うとしている。満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。</p>	
--	--	--	--	--	--	--